

有価証券報告書

事業年度 自 2017年10月1日
(第23期) 至 2018年9月30日

株式会社エムティーアイ

有価証券報告書

- 1 本書は金融商品取引法第24条第1項に基づく有価証券報告書を、同法第27条の30の2に規定する開示用電子情報処理組織(EDINET)を使用し提出したデータに目次及び頁を付して出力・印刷したものであります。
- 2 本書には、上記の方法により提出した有価証券報告書に添付された監査報告書及び上記の有価証券報告書と併せて提出した内部統制報告書・確認書を末尾に綴じ込んでおります。

目 次

頁

第23期 有価証券報告書

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【沿革】	4
3 【事業の内容】	6
4 【関係会社の状況】	8
5 【従業員の状況】	9
第2 【事業の状況】	10
1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】	10
2 【事業等のリスク】	12
3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	14
4 【経営上の重要な契約等】	18
5 【研究開発活動】	18
第3 【設備の状況】	19
1 【設備投資等の概要】	19
2 【主要な設備の状況】	19
3 【設備の新設、除却等の計画】	20
第4 【提出会社の状況】	21
1 【株式等の状況】	21
2 【自己株式の取得等の状況】	25
3 【配当政策】	26
4 【株価の推移】	26
5 【役員の状況】	27
6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】	31
第5 【経理の状況】	40
1 【連結財務諸表等】	41
2 【財務諸表等】	87
第6 【提出会社の株式事務の概要】	99
第7 【提出会社の参考情報】	100
1 【提出会社の親会社等の情報】	100
2 【その他の参考情報】	100
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	101

監査報告書

内部統制報告書

確認書

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書（2019年4月4日付け訂正報告書の添付インラインXBRL）
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2018年12月25日
【事業年度】	第23期（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）
【会社名】	株式会社エムティーアイ
【英訳名】	MTI Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 前 多 俊 宏
【本店の所在の場所】	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
【電話番号】	03(5333)6838
【事務連絡者氏名】	上席執行役員 財務法務本部長 兼 財務・経理部長 沖 野 俊 彦
【最寄りの連絡場所】	東京都新宿区西新宿三丁目20番2号
【電話番号】	03(5333)6838
【事務連絡者氏名】	上席執行役員 財務法務本部長 兼 財務・経理部長 沖 野 俊 彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	2014年9月	2015年9月	2016年9月	2017年9月	2018年9月
売上高 (千円)	30,985,078	33,461,440	32,844,230	30,933,963	29,075,702
経常利益 (千円)	2,519,431	4,144,266	5,310,961	3,972,461	3,116,316
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	1,337,838	2,607,431	3,317,734	1,434,207	1,629,077
包括利益 (千円)	1,293,801	2,728,286	3,094,246	1,437,080	1,465,323
純資産額 (千円)	9,722,770	16,591,180	17,852,951	17,937,376	18,808,423
総資産額 (千円)	16,768,363	24,738,244	25,154,188	23,897,871	23,896,566
1株当たり純資産額 (円)	184.49	281.48	311.13	312.28	328.78
1株当たり当期純利益金額 (円)	26.63	48.52	59.54	26.27	29.85
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	26.49	47.67	58.92	26.12	29.75
自己資本比率 (%)	55.4	64.8	68.8	71.2	75.2
自己資本利益率 (%)	15.1	20.6	19.9	8.4	9.3
株価収益率 (倍)	20.1	16.9	10.4	25.7	21.1
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	3,600,579	4,587,190	4,845,747	3,442,447	4,549,052
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,867,140	△1,707,341	△1,327,202	△3,874,417	△3,322,839
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△375,717	3,921,698	△2,469,846	△2,068,358	△855,314
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	4,782,677	11,608,562	12,613,012	10,133,961	10,504,223
従業員数 (名)	783	795	786	993	1,055
(外、平均臨時雇用者数)	(85)	(66)	(51)	(43)	(40)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていません。

2 2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。第19期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しています。

3 2015年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。第19期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しています。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	2014年9月	2015年9月	2016年9月	2017年9月	2018年9月
売上高 (千円)	29,149,330	31,297,953	30,915,227	27,698,451	24,859,379
経常利益 (千円)	2,591,730	4,111,669	5,873,337	4,512,061	3,505,232
当期純利益 (千円)	1,025,134	2,499,556	3,658,555	944,026	1,308,871
資本金 (千円)	2,596,342	4,947,984	5,012,181	5,069,848	5,100,464
発行済株式総数 (株)	26,810,600	60,226,800	60,549,200	60,854,400	61,016,400
純資産額 (千円)	9,234,490	15,765,549	17,573,037	16,661,189	17,321,616
総資産額 (千円)	15,769,882	23,256,175	24,274,418	21,947,292	21,754,853
1株当たり純資産額 (円)	179.26	274.52	313.55	302.55	313.10
1株当たり配当額 (円)	22.00	20.00	16.00	16.00	16.00
(1株当たり中間配当額)	(10.00)	(12.00)	(8.00)	(8.00)	(8.00)
1株当たり当期純利益金額 (円)	20.41	46.52	65.66	17.29	23.99
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益金額 (円)	20.30	45.70	64.97	17.19	23.90
自己資本比率 (%)	57.2	67.2	71.8	75.2	78.7
自己資本利益率 (%)	11.8	20.3	22.1	5.6	7.8
株価収益率 (倍)	26.3	17.6	9.5	39.0	26.2
配当性向 (%)	41.7	30.1	24.4	92.5	66.7
従業員数 (名)	701	692	663	672	695
(外、平均臨時雇用者数)	(83)	(62)	(44)	(33)	(27)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれていません。

2 2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。第19期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しています。

また、第19期の1株当たり配当額は、株式分割前の中間配当額10円と当該株式分割後の期末配当額12円を合計した金額です。

3 2015年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。第19期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり純資産額、1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額を算定しています。

また、第20期の1株当たり配当額は、株式分割前の中間配当額12円と当該株式分割後の期末配当額8円を合計した金額です。

2 【沿革】

年月	概要
1996年 8月	移動体通信機器の販売およびデータ通信サービスの提供を目的として、東京都新宿区西新宿1丁目6番1号に資本金90,000千円をもって株式会社エムティーアイを設立 本社を東京都豊島区南池袋1丁目16番20号に移転
10月	本社を東京都新宿区西新宿6丁目14番1号に移転
1997年10月	音声情報コンテンツサービスの提供を開始
1998年12月	データ情報コンテンツサービスの提供を開始
1999年10月	当社株式が日本証券業協会に店頭売買有価証券として登録
2000年 3月	株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー(株式会社ミュージック・ドット・ジェイピーに商号変更)を子会社化
9月	カード・コール・サービス株式会社(株式会社カードコマースサービスに商号変更)を子会社化
2001年 3月	株式会社テレコムシステムインターナショナルを株式交換で完全子会社化
2003年 3月	株式会社テレコムシステム東京の商号を株式会社サイクルヒット(株式会社CHに商号変更)に変更
7月	有限会社テレコムシステムセンターを増資、商号を株式会社ITSUMOに変更
10月	株式会社テラモバイルを株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー全額出資により設立
2004年 3月	株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピーを株式交換で完全子会社化
9月	株式会社カードコマースサービスの株式を株式交換により譲渡
12月	当社株式がジャスダック証券取引所に上場
2005年 1月	本社を東京都新宿区西新宿3丁目20番2号に移転 株式会社モバイルブック・ジェーピーを設立
3月	株式会社テラモバイルの着信メロディ事業を会社分割により承継
12月	株式会社コミックジェイピーを設立
2006年 1月	連結子会社の株式会社ミュージック・ドット・ジェイピーを合併
7月	会社分割による携帯電話販売事業部門の分社化(アルファテレコム株式会社)および株式譲渡
11月	連結子会社の株式会社ITSUMO(株式会社TMに商号変更)の医療保険販売事業を会社分割および孫会社の株式会社ITSUMOインターナショナル(株式会社ITSUMOに商号変更)の株式譲渡
2007年 1月	連結子会社の株式会社テレコムシステムインターナショナルを合併
6月	連結子会社の株式会社TMを合併
2009年 2月	連結子会社の株式会社コミックジェイピーを合併
2010年 4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併にともない、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場
6月	上海海隆宜通信信息技术有限公司を設立
10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場および同取引所NEO市場の各市場の統合にともない、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場
11月	Jibe Mobile株式会社(Automagi株式会社に商号変更)を第三者割当増資引受けにより子会社化
12月	MShift, Inc. を連結子会社化

年月	概要
2012年4月	株式会社マイトラックスを株式取得および第三者割当増資引受けにより子会社化
2013年5月	株式会社ビデオマーケットを持分法適用関連会社化
7月	東京証券取引所と大阪証券取引所との現物市場統合にともない、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)市場に上場
9月	株式会社エバージーンを設立
11月	株式会社ソニックノートを設立
2015年3月	東京証券取引所市場第一部へ株式を上場
4月	クライム・ファクトリー株式会社および株式会社ファルモを株式取得により連結子会社化
7月	株式会社カラダメディカおよび株式会社LHRサービス(株式会社エムティーアイヘルスケアラボに商号変更)を設立
11月	株式会社スタージェンおよび株式会社スマートメドを株式取得により持分法適用関連会社化
2016年9月	MYTRAX VIETNAM Co., Ltd(MTI TECHNOLOGY Co., Ltdに商号変更)を設立
12月	株式会社Authlete Japan(株式会社Authleteに商号変更)を第三者割当増資引受けにより持分法適用関連会社化
2017年3月	連結子会社の株式会社マイトラックスを吸収合併 株式会社ビデオマーケットを株式取得および第三者割当増資引受け等により連結子会社化
8月	MTI FINTECH LAB LTDを株式取得および第三者割当増資引受けにより連結子会社化
10月	連結子会社のクライム・ファクトリー株式会社を吸収合併
2018年3月	クリニカル・プラットフォーム株式会社を株式取得および第三者割当増資引受けにより連結子会社化
6月	Mebifarm Holdings Ltd. を株式取得により持分法適用関連会社化
7月	クラウドキャスト株式会社を持分法適用関連会社化
9月	モチベーションワークス株式会社を設立

3 【事業の内容】

当社グループでは、「世の中を、一歩先へ。」というビジョンの実現に向けてコンテンツ配信事業を推進しています。

2018年9月30日現在、当社（株式会社エムティーアイ）および関係会社の計31社により当社グループは構成され、スマートフォン等のインターネットに接続可能なモバイル端末向けにコンテンツ企画・制作・開発・運用を行う「コンテンツ配信事業」を主な事業内容としています。

当社グループの主力事業は、「音楽」、「動画」、「書籍」、「ヘルスケア」、「生活情報」、「エンターテインメント」等、毎日の暮らしを楽しく便利にする多彩なサービスを、モバイルサイトを通じて提供し、お客さまからいただく月額利用料等により収益を得ています。

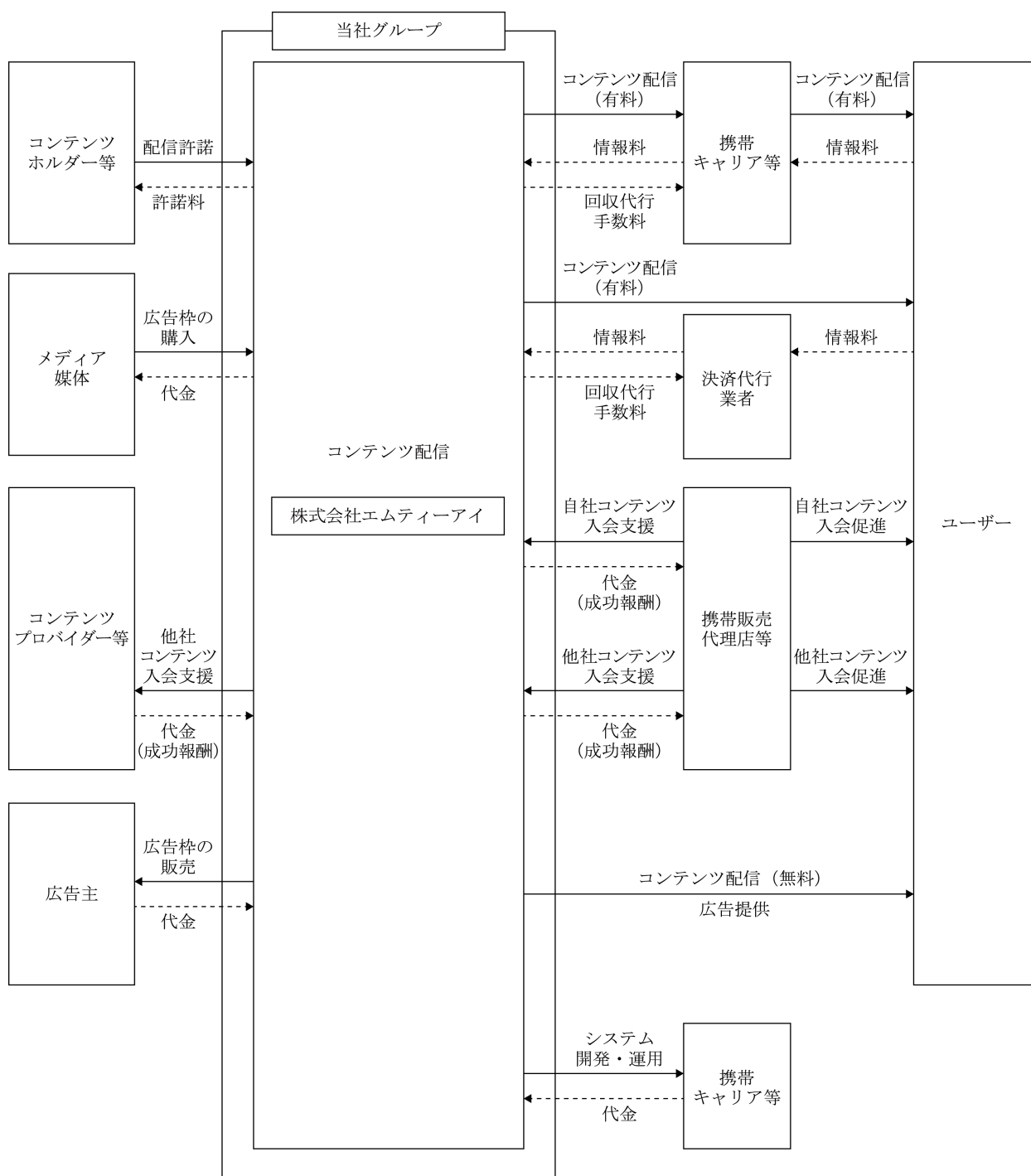
また、スマートフォン有料会員の獲得を行うために、全国の携帯ショップで自社コンテンツの販売促進を行うリアルアフィリエイト・ネットワークを構築しましたが、そのネットワークを活用して他社コンテンツの販売促進に伴う手数料収入により収益を得ることも展開しています。

なお、当社グループは、コンテンツ配信事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しています。

事業内容	主要な会社
コンテンツ配信事業	当社

[事業系統図]

当社グループの事業系統図は次のとおりです。



——▶ サービスの流れ
 - - - -▶ 対価の流れ

4 【関係会社の状況】

名称	住所	資本金	主要な事業内容	議決権の所有又は被所有割合 (%)	関係内容
(連結子会社)					
クリニカル・プラットフォーム株式会社	東京都新宿区	451,975千円	クラウド電子カルテ事業等	50.86	役員の兼任あり
Automagi株式会社	東京都新宿区	336,800千円	ソフトウェア開発等	62.76	役員の兼任あり
株式会社カラダメディカ (注) 3	東京都新宿区	100,000千円	コンテンツ配信事業	100.00	役員の兼任あり
株式会社メディアアノ	東京都新宿区	100,000千円	インターネット広告・メディア事業	100.00	役員の兼任あり
モチベーションワークス株式会社	東京都新宿区	100,000千円	学校向けITソリューション事業	100.00	役員の兼任あり
MTI TECHNOLOGY Co.,Ltd	ベトナム ホーチミン市	22,560,500千ベトナムドン	ソフトウェア開発等	100.00	役員の兼任あり
株式会社ビデオマーケット	東京都港区	90,000千円	モバイル向け動画サービス等	57.57	役員の兼任あり
その他17社					
(持分法適用関連会社)					
株式会社Authlete	東京都千代田区	223,355千円	ソフトウェア開発等	20.40	役員の兼任あり
上海海隆宜通信信息技术有限公司	中国上海市	7,500千人民元	ソフトウェア開発等	45.00	役員の兼任あり
株式会社スタージェン	東京都台東区	136,495千円	創薬・育薬事業等	27.09	役員の兼任あり
その他3社					
(その他の関係会社)					
株式会社光通信 (注) 2	東京都豊島区	54,259百万円	携帯電話加入手続に関する代理店業務等	被所有 22.96 (12.40)	同社のグループ企業との間で携帯販売代理店におけるコンテンツ販売促進業務に関する取引があります

(注) 1 「議決権の所有又は被所有割合」の()内は、間接被所有割合で内数です。

2 有価証券報告書を提出しています。

3 株式会社カラダメディカは2018年11月9日に第三者割当増資を実施いたしました。詳細につきましては「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (重要な後発事象)」に記載のとおりです。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2018年9月30日現在

従業員数(名)
1,055 (40)

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しています。
2 当社グループは、単一セグメントであるため、セグメントごとに記載していません。

(2) 提出会社の状況

2018年9月30日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
695 (27)	36.2	6.8	5,750,569

- (注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しています。
2 平均年間給与は、賞与および基準外賃金を含んでいます。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されていませんが、労使関係は円満に推移しています。

第2 【事業の状況】

1 【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 会社の経営の基本方針

当社グループでは、世の中が日々変化していく中でその時々求められるサービスを生み出し世界中に届けていくことが、お客様がより自由に自分らしく生きられる社会を実現する上で大切なことと考えています。ビジョンとして「世の中を、一歩先へ。」を掲げ、お客様にとって日々の生活を共に歩むパートナーの存在であり続け、生活をより便利に、より豊かにするサービスの提供を通じて、よりよい未来社会の実現に取り組んでいきます。

(2) 目標とする経営指標

当社グループでは、「売上高の成長率」と「営業利益率の改善度」を重要な経営指標としています。これらの経営指標を持続的に向上させることにより、企業価値の継続的向上を実現してまいります。また、「総還元性向」については、中期的に35%を目安に株主還元を行う方針です。

(3) 中長期的な経営戦略

当社グループでは、コンテンツ配信事業から生み出す安定的な収益の一部を成長性の高い分野への投資に振り向け、新たに安定的な収益を生み出せる分野を育成するとともに、市場規模が大きく、成長性の高いと見込まれる分野に対しても投資を行っています。

また、スマートフォン向けサービス市場が成熟する中、サービスの付加価値を高めるとともに、新たなサービス開発による事業機会の創出にも積極的に取り組み、売上高の持続的成長と継続的な利益の積み上げの実現を図ってまいります。

中長期的な経営戦略は以下のとおりです。

① コンテンツ配信事業における顧客単価（ARPU）の向上

スマートフォン普及率が高い水準に達していることから、今後はお客様にとってより使いやすくより分かりやすいサービス作りとともに、従来のサービス水準よりも付加価値の高いサービスを提供することに取り組んでいきます。

お客様に人気が高いものとして音楽、書籍・コミック、動画に集中していますが、動画配信市場の成長が続く見込みであることから、ハリウッド映画の作品数を拡充することにより、動画コンテンツの品揃えを特に強化し、ARPUの向上に繋げていきます。

② ヘルスケアサービス事業への取り組み

ヘルスケアサービス事業は、将来の成長ポテンシャルが大きく、お客様のライフステージを長期間サポートすることで、従来よりもストック型ビジネスになり得る可能性があることから、中期的に取り組んでいく方針です。

医療・ヘルスケア領域に関わるさまざまなサービスを展開していますが、それぞれのサービスの収益化の早期実現に取り組むとともに、医療機関や調剤薬局、健診機関、健保組合、自治体などの複数の団体がそれぞれに連携できるサービスの統合を通じてお客様の利便性の高いサービスとして確立することも推進してまいります。

(4) 会社の対処すべき課題

① マーケティング力の強化

携帯端末の進化やモバイル・コンテンツの利用世代の拡大により、お客様のニーズも常に変化し、多様化しています。このような動きを的確に捉え、顧客満足度の高いコンテンツを提供する上で、マーケティング力を高め続ける体制の構築が重要であると認識しています。

このため、当社ではマーケティング部門の組織体制の強化を推進するとともに、専門的スキルを持った人材の強化と社内研修体制の充実による人材の教育・育成を促進することを通じて、当社の強みである「マーケティング力」のさらなる強化を図っています。

② 品質管理力の強化

お客様に継続的にモバイル・コンテンツをご利用いただくためには、マーケティングリサーチから汲み取ったお客様のニーズを実際のサイトに反映することはもちろん、ご満足いただける品質と品揃えで提供することが求められ、高い品質管理体制の構築が重要であると認識しています。

このため、当社のコンテンツ素材の制作現場では、すべての制作工程について手順と品質基準を明確にし、その管理を徹底するとともに、人材の教育・育成、PDCA活動による継続的改善を行いながら、高品質なコンテンツ素材を効率的に制作する体制の構築を迫及しています。

③ 開発力の強化

携帯端末の高機能化、通信インフラの高速化・大容量化により、モバイル・コンテンツはさらに付加価値の高いサービスの提供が可能になると考えられます。将来にわたりお客様から支持されるには、質の高い技術開発体制の構築が重要であると認識しています。

このため、技術環境の変化に迅速かつ機動的に対応できる開発手法を推進するとともに、スキルの高い人材の確保ならびに教育・育成に注力し、開発要員の技術レベルの底上げを図ります。また、オフショア開発の促進を図り、品質が高く効率的な開発体制の構築を推進しています。

④ デザイン力の強化

スマートフォン向けサービスでは、コンテンツの操作性の充実やより高度な表現がさらに可能になると考えられます。お客様が利用されるサービスを選択する際に非常に重要なポイントとなり、質の高いデザインを提供する体制の構築が重要であると認識しています。

このため、ユーザーインターフェースの研究およびお客様に好まれるデザインの研究を推進するとともに、スキルの高い人材の確保ならびに教育・育成に注力し、より高品質なデザインを提供できる体制の構築を推進しています。

2 【事業等のリスク】

当社の事業展開上リスク要因となる可能性があると考えられる主な事項を記載しています。また、必ずしも事業展開上のリスク要因に該当しない事項であっても、投資を判断する上で重要または有益、あるいは当社の事業活動を理解する上で重要と考えられる事項については、投資家への情報開示の観点から積極的に開示しています。

当社では、これらのリスク発生の可能性を認識した上で、その発生の回避そして発生した場合には迅速な対応に努める方針ですが、当社株式に関する投資判断は、本項および有価証券報告書中の本項以外の記載内容も併せて慎重に検討した上で行われる必要があると考えます。また、以下の記載は、当社株式の投資に関するすべてのリスクを網羅しているわけではないことをご留意ください。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

(1) 特定人物への依存

当社の代表取締役社長である前多俊宏は、新たな事業モデルの創出において中心的な役割を担い、また、実際の事業の推進においても重要な役割を果たしています。当社は、同氏に過度に依存しない経営体制の構築を目指し、人材の育成・強化に注力していますが、同氏が何らかの理由により業務執行できない事態となった場合には、当社の業績に重大な影響を与える可能性があります。

(2) 事業環境における想定外の変化

当社の主力事業であるモバイル・コンテンツ配信事業において、以下のような要因により現時点において当社が想定する売上高、あるいは売上原価や販売費及び一般管理費等の見通しに大きな相違が発生する可能性があり、その結果、当社の経営方針や経営戦略の変更を余儀なくされ、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

- ①市場環境が大きく変化の中で、有料会員数が当社の想定よりも大幅に下回る、または無料コンテンツの台頭による有料コンテンツの利用率減少やユーザーの嗜好が大きく変化する等、計画策定時の想定を超える不確定要素が顕在化した場合。
- ②コンテンツの内容・品質・価格等の面で競合企業との差別化を図ることができず、有料課金サービスにおいて有料会員数を計画通りに確保できない場合。または、競合企業との会員獲得競争が熾烈なものになり、価格面での競争が激化する中で、他社サービスへの会員流出やコスト競争力を維持できずに有料会員数を維持できない場合。
- ③技術革新が急速に進展する中で、ユーザーニーズに適合したサービスの開発・提供や収入形態の変化、先進技術への対応等が遅れることにより、サービス・技術の陳腐化を招いた場合。あるいは、予想以上にコンテンツ制作コストが増加し、コンテンツ制作の面で効率的な開発体制を維持できず、収益が確保できない場合。
- ④モバイル・コンテンツ配信市場が急激に飽和・衰退する、あるいは有料会員の獲得方法の劇的な変化等で広告宣伝による販促効果が期待通りに得られない等の事情により有料課金サービスにおいて有料会員数を計画通りに確保できない場合。または、予想以上にコンテンツ獲得コストが増加することにより、収益の確保が困難となる場合。
- ⑤当社および当社が取り扱う他社の有料課金サービスは、携帯端末の主要販売チャネルである全国の携帯ショップを通じて入会する割合が非常に高いので、その販売チャネルが法的規制や行政指導、携帯キャリアによる規制または環境変化等による何らかの要因で役割が大きく変化し、入会者数の確保が困難になった場合。
- ⑥当社および当社が取り扱う他社の有料課金サービスは、携帯キャリアによる携帯端末の新機種の発売のタイミング（通常の商戦期は3月、7～8月、12月）により入会者数が増減する傾向があるので、携帯端末の商戦期が新機種の発売効果が想定よりも振るわなかったり、新機種の発売効果が見込めなかったりすることにより入会者数の確保が困難になった場合。
- ⑦当社では、今後市場規模が大きく、成長性が高い分野と期待されるヘルスケアサービス事業に対して中長期的に取り組んでいますが、当該事業の与える影響を確実に予測することは困難であり、予期せぬ変化が発生したことにより当初予定していた事業計画を達成できず、あるいは期待どおりの効果を生まず先行投資に見合うだけの十分な収益を将来において計上できない場合。

⑧当社事業に関連する可能性がある規制・法令等が改定・新設され、当該規制に対応していくためのサービス内容の変更やサービスを運営・維持するためのコストの増加、事業展開の制限や事業を中断せざるをえない事態等が発生した場合。

なお、当社事業に関連する可能性がある規制・法令として、「景品表示法」、「不正競争防止法」、「消費者契約法」、「個人情報保護に関する法律」、「特定商取引に関する法律」、「医療法」、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」、「下請法」、「独占禁止法」、「出会い系サイト規制法」等が挙げられます。

(3) 特定事業者への依存

最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 ④生産、受注および販売の状況 c) 販売実績」に記載のとおりであり、携帯キャリアに対する依存度が高い状況にあります。携帯キャリアのインターネット接続サービスに関する事業方針の変更等があった場合には、当社の業績および今後の事業展開に大きな影響を与える可能性があります。

(4) コンテンツホルダーからの提供によるコンテンツ

音楽、書籍、動画等のデジタルコンテンツは、各コンテンツホルダーがコンテンツごとに独占的に著作権使用許諾権利を保有している状況が多いので、同ホルダーとの著作物使用許諾契約に関して、契約内容の一部見直しや解除がなされ人気の高いコンテンツの提供ができなくなった場合には、同コンテンツを調達することの代替はできないことから、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(5) 人材の維持、育成、獲得

当社では、今後のさらなる業容拡大および持続的成長の実現に向けて、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (4) 会社の対処すべき課題」に記載のとおりマーケティング力の強化、品質管理力の強化、開発力の強化、デザイン力の強化を継続的に行っていますが、これらのスキルの高い優秀な人材の維持、人材の育成、および人材の獲得をできない場合には、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(6) 情報ネットワークの不稼働

当社は通信回線や情報システム等を活用した事業を展開していますので、自然災害や事故等による通信回線切断や、予想を超える急激なアクセス数増加によるシステムダウンまたはウィルスや外部からのコンピュータ内への不正侵入等により、通信回線や情報システム等が長期間にわたり不稼働になった場合には事業を中断せざるをえず、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(7) 個人情報の流出

当社は、取り扱う個人情報について、厳格な管理体制を構築し、情報セキュリティを確保するとともに、情報の取り扱いに関する規程類の整備・充実や従業員・取引先等への教育・研修・啓蒙を図り個人情報の保護を徹底していますが、個人情報流出したことにより問題が発生した場合には、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(8) 知的財産権の侵害

当社は、第三者の知的財産権を侵害しないよう常に注意を払って事業展開していますが、当社の認識の範囲外で第三者の知的財産権を侵害する可能性があり、その第三者より損害賠償請求および差止め請求等の訴訟を起こされることにより賠償金の支払い等が発生した場合には、当社の業績に大きな影響を与える可能性があります。

(9) 未回収代金

当社では有料会員の月額課金の回収については、主に携帯キャリアに回収代行業務を委託しています。携帯キャリアの事業戦略の変更等により契約の継続が困難になった場合や回収代行の手数料が変更された場合、または何らかの事態が発生して未回収代金が増加した場合には、当社の業績に影響を与える可能性があります。

(10) サイトの安全性および健全性確保

当社が提供するサービスの一部には、不特定多数のユーザー同士がサービス内でメッセージ機能を利用してコミュニケーションを図っていますので、利用規約等に反した大規模なトラブルが発生した場合には、当社が責任を問われる可能性や当社サービスの信用力やイメージ悪化を招き、当社の業績に影響を与える可能性があります。

3 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という）の状況の概要は次のとおりです。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

① 経営成績の状況

当社グループの主な事業分野であるコンテンツ配信事業では、スマートフォン普及率が高い水準に達していることから、携帯ショップ経由でのスマートフォン有料会員の獲得は伸び悩んでいる状況となっています。一方では、動画コンテンツの需要が高まっていることから、動画の品揃え強化による顧客単価（ARPU）の向上に注力しています。

また、将来の成長ポテンシャルが大きく、お客様のライフステージを長期間サポートすることで、従来よりもストック型ビジネスになり得ることが期待できるヘルスケアサービス事業を積極展開しています。当面、同事業への先行投資が続きますが、各サービスにおいて売上拡大に取り組み、収益化の早期実現を目指します。

このような中、コンテンツ配信事業においては、携帯ショップ経由でのスマートフォン有料会員の獲得が伸び悩んでいることから、2018年9月末の同有料会員数は457万人（2017年9月末比75万人減）となり、全体有料会員数については560万人（同96万人減）となりました。

売上高については、顧客単価の上昇傾向が続いており、また株式会社ビデオマーケットの連結子会社化（2017年3月実施）に伴う増収効果もありましたが、前年同期と比べて全体有料会員数が減少していますので、29,075百万円（前年同期比6.0%減）となりました。

売上総利益については、売上高の減収に加えて、動画の品揃えを強化したことに伴い売上原価が増加したことにより、22,670百万円（同10.4%減）となりました。

営業利益および経常利益についても、広告宣伝費や外注費等の減少により販売費及び一般管理費は減少しましたが、売上総利益の減益を主因に、それぞれ3,218百万円（同20.6%減）、3,116百万円（同21.6%減）となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益については、100%子会社のクライム・ファクトリー株式会社を吸収合併（2017年10月1日）し、同社の繰越欠損金を引き継いだこと等により税金費用が減少したことを主因に、1,629百万円（同13.6%増）と増益となりました。

なお、当社グループは、コンテンツ配信事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しています。

② 財政状態の状況

当連結会計年度末の資産合計は23,896百万円となり、前年同期末比1百万円の減少となりました。

資産の部については、流動資産では主に受取手形及び売掛金が減少したことにより602百万円の減少となりましたが、固定資産では主に投資有価証券が増加したことにより601百万円の増加となりました。

負債の部については、流動負債では主に未払金と未払法人税等が減少したことにより929百万円の減少となり、固定負債では主に退職給付に係る負債が増加したことにより57百万円の増加となりました。

純資産の部については、配当金の支払いがありましたが、親会社株主に帰属する当期純利益として1,629百万円計上したことにより、871百万円の増加となりました。

以上の結果、当連結会計年度末における自己資本比率は75.2%（前年同期比4.0ポイント増）、ROE（自己資本当期純利益率は9.3%（同0.9ポイント増））となりました。

③ キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末の現金及び現金同等物は10,504百万円となり、前年同期末比370百万円の増加となりました。当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況および要因は次のとおりです。

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払いがありましたが、税金等調整前当期純利益の計上や減価償却費等により4,549百万円の資金流入（前年同期は3,442百万円の資金流入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、無形固定資産（主にソフトウェア）の取得による支出や投資有価証券の取得による支出等により3,322百万円の資金流出（前年同期は3,874百万円の資金流出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により855百万円の資金流出（前年同期は2,068百万円の資金流出）となりました。

④ 生産、受注および販売の状況

a) 生産実績

該当事項はありません。

b) 受注実績

該当事項はありません。

c) 販売実績

当連結会計年度における販売実績は次のとおりです。

販売高(千円)	前年同期比(%)
29,075,702	△6.0

(注) 1 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

2 最近2連結会計年度の主な相手先別の販売実績および当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりです。

相手先	前連結会計年度		相手先	当連結会計年度	
	金額(千円)	割合(%)		金額(千円)	割合(%)
株式会社NTT ドコモ	17,939,701	58.0	株式会社NTT ドコモ	16,387,242	56.4
KDDI株式会社	7,074,233	22.9	KDDI株式会社	6,687,231	23.0
ソフトバンク株式 会社	1,418,821	4.6	ソフトバンク株式 会社	1,112,930	3.8

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれていません。

3 当社グループは、単一セグメントであるため、セグメントごとに記載していません。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容は次のとおりです。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものです。

① 重要な会計方針および見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められる会計基準に基づき作成されています。この連結財務諸表の作成にあたり採用している重要な会計方針等は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項 (連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4 会計方針に関する事項」に記載のとおりです。

② 当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識および分析・検討内容

当連結会計年度の経営成績等は、「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析 (1) 経営成績等の状況の概要 ①経営成績の状況、および②財政状態の状況」に記載のとおりです。

なお、当社グループの2018年9月期計画の達成状況は以下のとおりです。

売上高は前年同期比6.0%減、計画比3.1%減となりました。これは全体有料会員数が前年同期比で減少したことが主因で減収となりましたが、概ね計画通りに着地しました。

営業利益は前年同期比20.6%減、計画比14.9%増となり、経常利益は前年同期比21.6%減、計画比11.3%増となりました。前年同期比については、全体有料会員数の減少による売上総利益の減益に伴うものです。計画比については、携帯ショップ経由の有料会員獲得効率を優先した結果、広告宣伝費が未消化になったことによるものです。

親会社株主に帰属する当期純利益は前年同期比13.6%増、計画比18.5%減となりました。前年同期比については、100%子会社のクライム・ファクトリー株式会社を吸収合併（2017年10月1日）し、同社の繰越欠損金を引き継いだこと等により税金費用が減少したことによるものです。計画比については、子会社のクリニカル・プラットフォーム株式会社の株式について、事業環境や今後の見通し等を勘案し、「関係会社株式評価損」として単体決算で計上することに伴い、「のれん償却額」として連結決算で同社に係る「のれん」全額を特別損失として計上したことによるものです。

2018年9月期の連結業績（計画）との比較

（単位：百万円）

	2017年9月期 （実績）	2018年9月期 （実績）	2018年9月期 （計画）	前年同期比		計画比	
				△1,858	△6.0%	△924	△3.1%
売上高	30,933	29,075	30,000	△1,858	△6.0%	△924	△3.1%
営業利益	4,053	3,218	2,800	△835	△20.6%	+418	+14.9%
経常利益	3,972	3,116	2,800	△856	△21.6%	+316	+11.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,434	1,629	2,000	+194	+13.6%	△370	△18.5%

なお、当社グループは、コンテンツ配信事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載は省略しています。

③ 経営成績に重要な影響を与える要因について

経営成績に重要な影響を与える要因については、「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載のとおりです。

④ 経営戦略の現状と見通し

経営戦略の現状と今後の見通しについては、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等」に記載のとおりです。

当社グループが重要な経営指標として位置付けている「売上高の成長率」については、顧客単価の向上に取り組みましたが、全体有料会員数が減少したことを主因に前年同期比で6.0%の減少となりました。

「営業利益率の改善度」についても、販売費及び一般管理費は減少しましたが、売上総利益の減益を主因に前年同期比で2.0ポイント減少の11.1%となりました。

また、「総還元性向」については、安定配当を継続する観点から前年と同水準である1株当たり年間配当金を16円としたことにより、53.6%となりました。

なお、当社グループの2019年9月期の計画は以下のとおりです。

2018年9月期連結業績（実績）との比較

（単位：百万円）

	2019年9月期 （計画）	2018年9月期 （実績）	前年同期比	
			△1,075	△3.7%
売上高	28,000	29,075	△1,075	△3.7%
営業利益	2,400	3,218	△818	△25.4%
経常利益	2,300	3,116	△816	△26.2%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,400	1,629	△229	△14.1%

⑤ 資本の財源および資金の流動性についての分析

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、コンテンツの調達のほか、販売費及び一般管理費等の営業費用によるものです。投資を目的にした資金需要は主にM&Aによるものです。これらの資金需要については、手元現金で賄うことを基本としています。

当連結会計年度末の現金及び現金同等物の期末残高は10,504百万円となりました。当社グループでは、この資金を有効活用することにより、新たな事業展開に備えるための新規投資や出資等による支出案件に対して、機動的に対応していきます。

4 【経営上の重要な契約等】

(1) 配信契約

相手方の名称	契約内容	契約期間
株式会社NTTドコモ	株式会社NTTドコモの提供する情報サービス提供者契約	自2011年9月22日 至2012年9月21日 以後1年毎の自動更新
KDDI株式会社	KDDI株式会社が構築・提供する情報提供サービスへのコンテンツ提供に関する契約	自2001年11月1日 至2002年10月31日 以後6ヶ月毎の自動更新
ソフトバンク株式会社	ソフトバンク株式会社が構築・提供する情報提供サービスへのコンテンツ提供に関する契約	自1999年12月8日 至2000年3月31日 以後1年毎の自動更新

(2) 技術開発に関する契約

相手方の名称	契約内容	契約期間
上海海隆軟件股份有限公司	業務委託基本契約	自2010年6月30日 至2011年6月29日 以降1年毎の自動更新
聯迪恒星（南京）信息系統有限公司	業務委託基本契約	自2010年7月1日 至2011年6月30日 以降1年毎の自動更新
MTI TECHNOLOGY Co.,Ltd	業務委託基本契約	自2017年1月1日 至2017年12月31日 以降1年毎の自動更新

(3) 投資契約

相手方の名称	契約内容	契約日
クリニカル・プラットフォーム株式会社（注）	株式投資契約	2018年3月13日
	株式引受契約	2018年3月20日
株式会社メディパルホールディングスおよび株式会社カラダメディカ	株式投資契約	2018年10月31日

（注） 詳細につきましては「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項（企業結合等関係）および（重要な後発事象）」に記載のとおりです。

5 【研究開発活動】

当社は、未来の携帯端末がもたらす未来社会の実現に貢献することをミッションとして掲げています。当連結会計年度の研究開発活動は、将来にわたりお客様から支持される付加価値の高いサービスを継続的に提供するため、企業および大学ならびに産業技術総合研究所等との共同研究による新技術開発およびヘルスケアサービス領域の拡大に向けた取り組みに日々取り組んでいます。

当連結会計年度における研究開発費の総額は、103百万円です。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資は総額1,583百万円であり、主な内容はソフトウェアで1,444百万円となっています。当社グループは、単一セグメントであるため、セグメントごとに記載していません。

なお、設備投資の金額には、有形固定資産の他、無形固定資産への投資を記載しています。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
		建物 附属設備	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	敷金及び 保証金	合計	
本社 (東京都新宿区)	システム開発 および設備等	71,904	136,883	1,559,853	453,440	2,222,082	695

(注) 1 上記の金額には消費税等は含まれていません。

2 上記の他、主要な賃借およびリース設備として、以下のものがあります。

事業所名 (所在地)	設備の内容	年間賃借料又は リース料(千円)
本社 (東京都新宿区)	事務所家賃	725,407
本社 (東京都新宿区)	サーバー等	17,667

3 当社は、単一セグメントであるため、セグメントごとに記載していません。

3 【設備の新設、除却等の計画】

(1) 重要な設備の新設等

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手および 完了予定日		完成後 の増加 能力
			総額 (千円)	既支払額 (千円)		着手	完了	
株式会社 エムティーアイ	本社 (東京都新宿区)	システム開 発および設 備等	1,158,030	—	自己資金	2018年 10月	2019年 9月	—

(注) 上記の金額には消費税等は含まれていません。

(2) 重要な設備の除却等

経常的な設備の更新のための除却等を除き、重要な設備の除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	179,040,000
計	179,040,000

② 【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (2018年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (2018年12月25日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	61,016,400	61,017,200	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株です
計	61,016,400	61,017,200	—	—

(注) 提出日の発行数には、2018年12月1日からこの有価証券報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式は含まれていません。

(2) 【新株予約権等の状況】

① 【ストックオプション制度の内容】

ストックオプション制度の内容は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 注記事項」の(ストック・オプション等関係)に記載しております。

② 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

③ 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2013年10月1日～ 2014年3月31日 (注)1	3,200	13,372,000	3,852	2,566,592	3,852	2,371,661
2014年4月1日 (注)2	13,372,000	26,744,000	—	2,566,592	—	2,371,661
2014年4月1日～ 2014年9月30日 (注)1	66,600	26,810,600	29,750	2,596,342	29,750	2,401,412
2014年10月1日～ 2015年3月31日 (注)1	189,600	27,000,200	83,469	2,679,812	83,469	2,484,882
2015年3月24日 (注)3	2,500,000	29,500,200	1,875,000	4,554,812	1,875,000	4,359,882
2015年3月27日 (注)4	388,600	29,888,800	291,450	4,846,262	291,450	4,651,332
2015年4月1日 (注)2	29,888,800	59,777,600	—	4,846,262	—	4,651,332
2015年4月1日～ 2015年9月30日 (注)1	449,200	60,226,800	101,721	4,947,984	101,721	4,753,053
2015年10月1日～ 2016年9月30日 (注)1	322,400	60,549,200	64,197	5,012,181	64,197	4,817,250
2016年10月1日～ 2017年9月30日 (注)1	305,200	60,854,400	57,667	5,069,848	57,667	4,874,918
2017年10月1日～ 2018年9月30日 (注)1	162,000	61,016,400	30,615	5,100,464	30,615	4,905,533

(注) 1 新株予約権の権利行使による増加です。

2 株式分割(1:2)によるものです。

3 有償一般募集

発行価格 1,582円

発行価額 1,500円

資本組入額 750円

4 有償第三者割当(オーバーアロットメントによる売出しに関連した第三者割当増資)

発行価格 1,500円

資本組入額 750円

割当先 大和証券㈱

5 2018年10月1日から2018年11月30日までの間に、新株予約権の行使により、発行済株式総数が800株、資本金が226千円および資本準備金が226千円増加しています。

(5) 【所有者別状況】

2018年9月30日現在

区分	株式の状況（1単元の株式数100株）								単元未満株 の状況(株)
	政府および 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	20	25	71	117	6	4,194	4,433	—
所有株式数 (単元)	—	39,440	3,253	258,480	55,795	237	252,869	610,074	9,000
所有株式数 の割合(%)	—	6.46	0.53	42.37	9.15	0.04	41.45	100.00	—

(注) 1 上記「その他の法人」には、証券保管振替機構名義の株式の20単元が含まれています。

2 自己株式6,333,128株は、「個人その他」に63,331単元、「単元未満株式の状況」に28株含まれています。

(6) 【大株主の状況】

2018年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に 対する所有株式 数の割合(%)
前 多 俊 宏	東京都世田谷区	11,856,400	21.68
株式会社ケイ・エム・シー	東京都新宿区西新宿3丁目20番2号	10,096,000	18.46
株式会社ブロードピーク	東京都豊島区西池袋1丁目4番10号	6,783,200	12.40
株式会社光通信	東京都豊島区西池袋1丁目4番10号	5,774,700	10.56
日本トラスティ・サービス信託銀行 株式会社(信託口)	東京都中央区晴海1丁目8番11号	1,166,600	2.13
株式会社メディパルホールディング ス	東京都中央区八重洲2丁目7番15号	1,150,000	2.10
日本マスタートラスト信託銀行株式 会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	725,800	1.33
株式会社昭文社	東京都千代田区麹町3丁目1番地	672,000	1.23
CREDIT SUISSE SECURITIES (USA) LLC SPCL. FOR EXCL. BEN (常任代 理人 クレディ・スイス証券株式会 社)	ELEVEN MADISON AVENUE NEW YORK NY 10010-3629 USA (港区六本木1丁目6番1 号 泉ガーデンタワー)	563,512	1.03
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040 (常任代理人 株式会社みず ほ銀行決済営業部)	225 LIBERTY STREET, NEW YORK, U.S.A (港区港南2丁目15番1号 品川インター シティーA棟)	445,400	0.81
計	—	39,233,612	71.73

(注) 上記のほか、自己株式6,333,128株(10.38%)があります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

2018年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 6,333,100	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 54,674,300	546,743	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
単元未満株式	普通株式 9,000	—	—
発行済株式総数	61,016,400	—	—
総株主の議決権	—	546,743	—

(注) 完全議決権株式(その他)には、証券保管振替機構名義の株式の2,000株(議決権20個)が含まれています。

② 【自己株式等】

2018年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エムティーアイ	新宿区西新宿三丁目20番2号	6,333,100	—	6,333,100	10.38
計	—	6,333,100	—	6,333,100	10.38

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議または取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	—	—
当期間における取得自己株式	6	3

(注) 当期間における取得自己株式には、2018年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(千円)	株式数(株)	処分価額の総額(千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	6,333,128	—	6,333,134	—

(注) 当期間における保有自己株式数には、2018年12月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、企業価値の創造と拡大を通じた時価総額の向上とともに、利益配分を継続的に実施していくことを重要課題として位置付けています。

利益配分にあたっては、「中長期的な売上高・利益の持続的成長と株主の皆さまへの利益還元の調和」という資本政策の基本方針および積極的な事業展開に備えるための内部留保を勧奨し、総還元性向として中期的に35%を目安に株主還元を行ってまいります。

配当回数については、中間配当と期末配当の年2回実施する方針としています。中間配当の決定機関は取締役会、期末配当の決定機関は株主総会としています。なお、当社は、「取締役会の決議によって、毎年3月31日を基準日として中間配当をすることができる」旨を定款に定めています。

当事業年度の期末配当金については、安定配当を維持する観点から予想どおり8円としました。これにより、中間配当と期末配当を合わせた年間配当金は1株当たり16円となり、総還元性向は53.6%となりました。

当事業年度の剰余金の配当は、以下のとおりです。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)
2018年4月27日 取締役会決議	436,480	8
2018年12月22日 定時株主総会決議	437,466	8

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第19期	第20期	第21期	第22期	第23期
決算年月	2014年9月	2015年9月	2016年9月	2017年9月	2018年9月
最高(円)	□2,000 ■1,218	■1,973 ◎930	849	776	729
最低(円)	□882 ■470	■779 ◎633	580	608	556

- (注) 1 最高・最低株価は、2013年7月16日から2015年3月23日までは東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)における株価、2015年3月24日以降は東京証券取引所市場第一部における株価を記載しています。
- 2 □印は2013年4月1日付の株式分割(1株→100株)による権利落後の株価、■印は2014年4月1日付の株式分割(1株→2株)による権利落後の株価および◎印は2015年4月1日付の株式分割(1株→2株)による権利落後の株価を示しています。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	2018年4月	5月	6月	7月	8月	9月
最高(円)	679	697	667	642	660	658
最低(円)	616	630	556	584	602	610

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しています。

5 【役員状況】

男性9名 女性2名 (役員のうち女性の比率18%)

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長		前 多 俊 宏	1965年1月19日生	1987年4月 1988年12月 1989年8月 1994年7月 1996年8月	日本アイ・ビー・エム株式会社 入社 株式会社光通信 入社 同社 取締役 同社 常務取締役 当社設立 代表取締役社長 (現任)	※1	11,856,400
取締役 副社長	ライフ・エン ターテインメ ント・スポー ツ事業本部長 兼テクノロジー 一部、ソリ ューション事 業部、コンプ ライアンス推 進統括室担当	泉 博 史	1965年2月26日生	1987年4月 1997年6月 1999年2月 1999年11月 2002年11月 2002年12月 2004年12月 2007年1月 2009年12月 2010年2月 2012年6月 2014年2月 2014年7月 2015年4月 2016年2月 2017年1月 2018年4月	日本アイ・ビー・エム株式会社 入社 マイクロソフト株式会社 入社 当社 入社 当社 執行役員IT事業部長 当社 執行役員モバイルサービ ス事業本部長 当社 取締役モバイルサービス 事業本部長 当社 取締役兼執行役員専務モ バイルサービス事業本部長 当社 取締役兼執行役員副社長モ バイルサービス事業本部長 当社 取締役副社長モバイルサー ビス事業本部長 当社 取締役副社長 当社 取締役副社長Healthcare事 業本部長 当社 取締役副社長モバイルサー ビス事業本部長兼Healthcare事業 本部長 当社 取締役副社長ライフ・ヘル スケア事業本部長 当社 取締役副社長デジタルコン テンツ事業本部長 当社 取締役副社長ライフ事業本 部長兼デジタルコンテンツ事業本 部長 当社 取締役副社長ライフ・エン ターテインメント事業本部長 当社 取締役副社長ライフ・エン ターテインメント・スポーツ事業 本部長 (現任、テクノロジー本 部、ソリューション事業部、コン プライアンス推進統括室担当)	※1	326,400

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
専務取締役	IR室・事業アライアンス担当	松本博	1969年8月17日生	1992年4月 株式会社富士銀行（現株式会社みずほフィナンシャルグループ） 入行 1999年5月 株式会社シーエーシー 入社 2002年10月 株式会社ユー・エス・ジェイ 入社 2004年10月 当社 入社 2008年2月 当社 執行役員経営企画室長兼広報・IR室長 2009年1月 当社 執行役員経営企画本部長 2010年1月 当社 上席執行役員経営企画本部長 2010年5月 当社 上席執行役員コーポレート・サポート本部長 2010年12月 当社 取締役コーポレート・サポート本部長 2013年2月 当社 取締役 2016年12月 当社 常務取締役 2018年12月 当社 専務取締役（現任、IR室・事業アライアンス担当）	※1	106,921
常務取締役	コーポレート・サポート本部長	大沢克徳	1961年9月7日生	1985年4月 株式会社日本シュルンベルジュ 入社 1989年8月 株式会社アドバンス 入社 1992年5月 株式会社日本ブランゼー 入社 1994年1月 株式会社光通信 入社 1998年11月 株式会社エム・アイエス 入社 2000年7月 株式会社テレコムシステムインターナショナル(現当社) 入社 2000年12月 当社 取締役管理本部長 2002年11月 当社 取締役モバイルサービス事業本部管理室長 2002年12月 当社 執行役員モバイルサービス事業本部副本部長 2006年12月 当社 取締役兼上席執行役員モバイル・サービスセンター長 2007年12月 当社 取締役兼執行役員常務モバイル・サービスセンター長 2009年12月 当社 常務取締役モバイル・サービスセンター長 2012年4月 当社 常務取締役 2013年2月 当社 常務取締役コーポレート・サポート本部長（現任）	※1	105,778

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
社外 取締役		周 牧 之	1963年7月2日生	1985年7月 中華人民共和国機械工業部 1995年6月 一般財団法人国際開発センター 主任研究員 2002年4月 東京経済大学 経済学部 助教授 2005年1月 財務省財務総合政策研究所 客員 研究員 2007年4月 東京経済大学 経済学部 教授 (現任) マサチューセッツ工科大学 客員 教授 2008年5月 ハーバード大学 客員研究員 2010年4月 対外経済貿易大学 客員教授 (現 任) 2012年4月 中国科学院 特任教授 2015年12月 当社 社外取締役 (現任)	※1	—
社外 取締役		山 本 晶	1973年10月2日生	2004年4月 東京大学大学院経済学研究科 助 手 2005年4月 成蹊大学経済学部 専任講師 2008年4月 成蹊大学経済学部 准教授 2014年4月 慶應義塾大学大学院経営管理研究 科 准教授 (現任) 2015年12月 当社 社外取締役 (現任)	※1	—
社外 取締役		土 屋 了 介	1946年1月16日生	2006年4月 国立がんセンター中央病院 (現国 立研究開発法人国立がん研究セン ター) 病院長 2011年2月 公益財団法人日本心臓血圧研究振 興会 理事 (現任) 2011年4月 公益財団法人がん研究会 理事 (現任) 2014年4月 地方独立行政法人神奈川県立病院 機構 理事長 2014年6月 公益財団法人ヒューマンサイエン ス振興財団 理事 (現任) 2018年12月 当社 社外取締役 (現任)	※1	—

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (株)
社外監査役		武井 実	1952年2月15日生	1974年4月 2000年4月 2002年4月 2004年4月 2006年4月 2010年3月 2017年8月 2017年12月	三菱商事株式会社 入社 同社 財務部長 同社 関西支社財務部長 三菱商事フィナンシャルサービス株式会社 代表取締役社長 三菱商事株式会社 執行役員 カンロ株式会社 取締役副社長 当社 顧問 当社 常勤監査役 (現任)	※2	—
社外監査役		中村 好伸	1960年10月4日生	1988年4月 2003年8月 2005年6月 2007年6月 2008年12月 2010年6月	弁護士登録 日本アイ・ビー・エム株式会社 入社 米国IBMコーポレーション 出向 日本アイ・ビー・エム株式会社 帰任 隼あすか法律事務所 パートナー 当社 社外監査役 (現任) 中村好伸法律事務所 所長 (現任) (他の会社の代表状況) 中村好伸法律事務所 所長	※3	—
社外監査役		崎島 一彦	1947年11月21日生	1970年4月 2001年4月 2004年3月 2009年4月 2009年12月 2010年12月	三菱商事株式会社 入社 同社 関西支社副支社長 三菱商事プラスチック株式会社 代表取締役社長 同社 取締役 当社 社外監査役 (現任) 特定非営利活動法人 TeachFor Japan 理事	※4	—
社外監査役		大矢 和子	1950年9月5日生	1973年4月 2001年6月 2007年4月 2007年6月 2011年4月 2011年6月 2011年12月 2013年5月 2013年7月 2015年10月	株式会社資生堂 入社 同社 執行役員 同社 常勤顧問 同社 監査役 (常勤) 公益財団法人資生堂社会福祉事業財団 理事長 (現任) 株式会社資生堂 顧問 当社 社外監査役 (現任) 株式会社イオンファンタジー 社外取締役 (現任) 朝日生命保険相互会社 社外取締役 (現任) 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 監事 (他の会社の代表状況) 公益財団法人資生堂社会福祉事業財団 理事長	※5	—
計	—	—	—	—	—		12,395,499

(注) 取締役周牧之、山本晶、土屋了介は社外取締役です。

常勤監査役武井実、監査役中村好伸、崎島一彦、大矢和子は社外監査役です。

各役員の任期は、※1については、2018年12月22日開催の定時株主総会から1年、※2については、2018年12月22日開催の定時株主総会から4年、※3については2016年12月23日開催の定時株主総会から4年、※4については2017年12月23日開催の定時株主総会から4年、※5については2015年12月23日開催の定時株主総会から4年です。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

① 企業統治の体制

イ 企業統治の体制の概要

当社は、透明性が高く健全な経営体制の確立、そして事業環境の変化に対応した迅速かつ的確な意思決定システムの構築を重要な経営課題として捉えています。

その一環として、取締役の任期を1年とし、毎年株主の皆さまによる信任の機会を設け、緊張感を持った経営を行っています。また、コンプライアンス（法令順守）の強化・定着化を推進しています。

決算や重要な経営情報等については、IRポリシーに基づき、タイムリーかつ適切な情報開示を行い、また、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションを行うことにより、経営の透明性を高め、市場との信頼関係構築に努めていきます。

ロ 当該体制を採用する具体的な理由

当社では、社外取締役を含めた取締役会における意思決定および業務執行を行いながら、社外監査役を含めた監査役会、内部監査室、会計監査人による適正な監視体制の連携がとれ、牽制機能が強化されていることにより、経営監視機能の客観性と中立性は十分に確保されていることから現状の体制を採用しています。

ハ 企業統治に関する施策の実施状況

取締役会は社内取締役4名（男性4名）および社外取締役3名（男性2名、女性1名）で構成し、月1回の定時取締役会のほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、重要事項の決定ならびに取締役の職務執行の監督を行っています。また社外取締役は、当社と利害関係のない独立した立場から取締役会の監督機能強化や経営の中立性、客観性を高める役割を担っています。

監査役については4名すべてを社外監査役（男性3名、女性1名）とし、そのうち1名を常勤監査役として、取締役会のみならず重要な会議に出席するなど、経営に対する監視機能の強化を図っています。

業務の執行にあたっては、経営効率の向上および意思決定のスピードアップを図るため、取締役および執行役員が中心となって出席する経営会議を月に2～3回開催し、職務執行に関する重要事項について協議を行い、その協議に基づいて代表取締役社長が意思決定を行っています。

内部監査については代表取締役社長直轄の内部監査室が、事業年度ごとに内部監査計画を策定し、代表取締役社長の承認を得て、内部監査を実施しています。監査結果を代表取締役社長に報告するとともに、取締役会および監査役会にも報告する体制とし、被監査部門に対しても、改善事項を通知し、改善状況の確認も行っています。

会計監査人には、EY新日本有限責任監査法人を選任しており、定期的な監査のほか、会計上の課題について随時相談・確認を行い、会計処理の透明性と正確性の向上に努めています。税務・法務関連業務に関しても、外部専門家と顧問契約を結び、随時アドバイスを受けています。

（注）EY新日本有限責任監査法人は2018年7月1日付で新日本有限責任監査法人から名称変更しています。

二 内部統制システムの整備状況（リスク管理体制の整備状況を含む）

・職務執行の基本方針

当社および当社の子会社（以下、「当社グループ」という。）は、「法令・社会倫理規範の遵守（以下、「法令等の遵守」という。）」、「各ステークホルダーへの誠実な対応および適切な情報開示」、「透明性が高く、健全な経営」、「事業活動における企業価値創造を通じた社会への貢献」を職務執行の基本方針とし、コーポレート・ガバナンスを推進します。

この基本方針のもと、会社法および会社法施行規則に定める当社グループの業務の適正を確保するための体制を整備していきます。

・当社グループの取締役および使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制

当社は、法令等の遵守を基本方針とし、コンプライアンスに関する規程を制定するとともに、コンプライアンス委員会を設置し、当社グループのコンプライアンスに関する取り組みを推進しています。

また、代表取締役社長所管の内部監査室では、業務の有効性・効率性の評価を中心とした業務監査活動ならびに財務報告の信頼性確保に係る内部統制の有効性評価を実施しています。内部監査室は、当該活動状況を代表取締役社長に報告するとともに、取締役会および監査役会ならびに被監査部門へ報告する体制になっています。

なお、コンプライアンスに関する取り組みは、コンプライアンス委員会が中心となり、当社グループの各部門との連携により推進しています。

法令上疑義のある行為等について使用人が直接情報提供を行うためのコンプライアンス・ヘルプライン窓口を設置しています。当社グループの役職員が法令違反の疑義がある行為等を発見した場合は、レポートラインまたはコンプライアンス・ヘルプライン窓口経由でコンプライアンス委員会および監査役会に報告する体制を採用しています。そして、報告された内容の重要度に応じて、コンプライアンス委員会または取締役会が当社グループの各部門と連携し再発防止策を策定し、全社的にその内容を周知徹底する仕組みとなっています。

・取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報については、文書または電磁的媒体（以下、「文書等」という。）にて記録・保存し、取締役および監査役は、常時これらの文書等を閲覧できる体制になっています。

文書等の管理については、文書管理および情報セキュリティに関する規程ならびに関連する諸規則等に基づき、実施される体制となっています。

・当社グループの損失の危険の管理に関する規程その他の体制

職務執行に係るリスクは、当社の各部門および当社の子会社の権限の範囲内にてリスク分析・対応策の検討を行っています。特に重要な案件や各部門および子会社の権限を超えるものについては、当社の経営会議または取締役会で審議し、意思決定を行うとともに、その後も継続的にモニタリングを実施しています。

さらに、職務執行ならびに財務報告の信頼性に係るリスク管理およびその対応については内部監査室が監査し、内部監査室は当該結果を代表取締役社長に報告するとともに、取締役会および監査役会に報告する体制となっています。その他の全社的なリスク管理およびその対応についてはコンプライアンス委員会が取組事項を検討および推進し、当該活動状況を取締役会に報告する体制となっています。

また、個別の案件それぞれの評価を行い、これに対応した当社グループ全体の管理を実行していくため、リスク管理体制に関連する規程を制定し、当社グループ全体のリスクを網羅的・総括的に管理する体制の整備・強化を行っています。

なお、情報セキュリティの確保・維持のために、情報資産の利用と保護に関する規程を制定するとともに、情報セキュリティ委員会を設置し、当社グループの経営活動に寄与すべく情報資産の利用・保護体制の整備・強化を行っています。

・当社グループの取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

当社グループでは、全社的な目標として中期経営計画および各年度予算を策定し、当社の各部門および当社の子会社は、この計画を達成するための具体的な施策を立案し、実行しています。

また、効率的な職務執行を推進するため、各取締役の担当部門および職務分担、権限を明確にした上で、各部門および子会社が実施すべき具体的な施策を検討し、実行しています。

さらに、当社は、定例の取締役会を月1回開催し、重要事項の決定ならびに取締役の職務執行の監督を行っています。あわせて、経営効率の向上および意思決定のスピードアップを図るため、取締役および執行役員が中心となって出席する経営会議を月に2～3回開催し、職務執行に関する重要事項について協議を行い、その協議に基づいて代表取締役社長が意思決定を行っています。

・当社および子会社からなる企業集団における業務の適正を確保するための体制

当社は、当社の子会社の経営意思を尊重しつつ、当社が定める関係会社管理規程に基づき、一定の事項については当社に事前協議を求めるとともに、当社の子会社の経営内容を的確に把握するための関係資料等の提出を求め、必要に応じて当社が当該子会社に対し助言を行うことにより、当社の子会社の経営管理を行っています。

当社経営会議には当社の主要子会社の社長を定期的に参加させ、その経営状況のモニタリングを適宜行っています。また、当社の子会社の管理機能を当社の管理部門に集約することにより、牽制機能を強化しています。今後も引き続き、当社の子会社の経営管理に関する指針の文書化を進め、当社の子会社の管理体制の整備を行ってまいります。

また、当社は業務の適正性を確保するために、内部監査室が業務監査活動を行うとともに、コンプライアンス委員会および当社グループの各部門との情報交換を定期的実施していきます。

- ・ 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項

監査役の職務を補助する組織として、監査補助を行うための監査役付の使用人を配置するとともに、監査役会事務局を設置しています。

- ・ 前項の使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役付の使用人の人事異動および考課については、事前に監査役会に報告し、了承を得ています。

- ・ 監査役の職務を補助すべき使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項

当社は、監査役付の使用人に関し、監査役の指揮命令に従う旨を当社の取締役および使用人に周知徹底しています。

- ・ 取締役および使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制

取締役は、当社グループに著しい損害を及ぼす恐れのある事実、あるいはコンプライアンスに関する重大な事実があることを発見した場合、直ちに監査役に報告する体制とし、使用人がこれらの事実を発見した場合も同様とします。

また、監査役のうち半数以上を社外監査役とし、そのうち1名以上を常勤監査役として、取締役会のみならず重要な会議に出席するなど、経営に対する監視機能の強化を図っています。

- ・ 監査役への報告者が不利な取り扱いを受けないことを確保するための体制

当社は、監査役への報告を行った当社グループの取締役、監査役および使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取り扱いを行うことを禁止し、その旨を当社グループの取締役、監査役および使用人に周知しています。

- ・ 監査役の職務の執行について生ずる費用の前払または償還の処理に係る方針に関する事項

監査役の職務の執行によって生ずる費用のため、年間の監査計画に基づく予算を確保するものとし、監査役が費用の前払または償還等の請求をしたときには、当該監査役の職務の遂行に必要なと認められた場合を除き、当社がこれを負担しています。

- ・ その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

監査役会は、代表取締役社長およびEY新日本有限責任監査法人とそれぞれ定期的に意見交換会を開催しています。また、当社の各部門および当社の子会社の重要な意思決定および業務の執行状況を把握するため、監査役は当社の各部門の長および当社の子会社の取締役、監査役および使用人からの個別ヒアリングを定期的に行うとともに、稟議書等の重要文書の閲覧等を行っています。

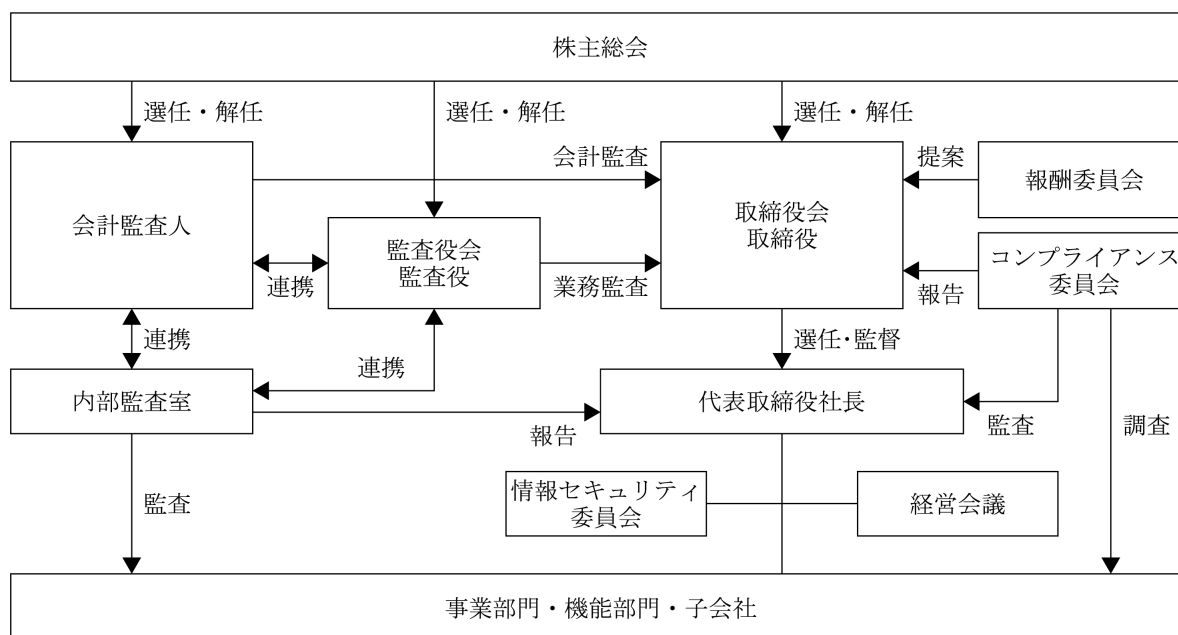
- ・ 財務報告の信頼性を確保するための体制

財務報告の信頼性を確保するために、代表取締役社長の指示のもと、金融商品取引法に規定された財務報告に係る内部統制が有効に行われる体制を構築し、その仕組みが適正に機能することを継続的に評価し、不備があれば必要な是正を行っています。

- ・ 反社会的勢力への対応

当社グループは、社会の秩序、企業の健全な事業活動の脅威となる反社会的な団体・個人とは一切の関係を持たず、一切の利益を供与しません。公益社団法人 警視庁管内特殊暴力防止対策連合会（特防連）に加盟し、特防連会報、特防連ニュース、および特防連が主催する研修会等への参加により、最新情報の収集を行っています。また、総務部と法務・知財部に不当要求防止責任者をそれぞれ設置しており、不当要求等が生じた場合は、法務・知財部を窓口として顧問弁護士、所轄警察署、特防連等と連携して適切な措置を講じていきます。

当社のコーポレート・ガバナンス体制の概要は、次のとおりです。



② 内部監査および監査役監査

内部監査では、代表取締役社長所管の内部監査室（5名）が、職務執行の監視に加えて、社内規程の遵守状況および業務活動の有効性・効率性を中心とした業務監査活動を実施しています。また、財務報告の信頼性確保に向けて、金融商品取引法に基づく財務報告に係る内部統制の有効性評価を実施しています。

監査役監査では、監査役は取締役会のみならず重要会議に出席するなど、経営に対する監視機能の強化を図っています。また、当社の各部門およびグループ会社の重要な意思決定および業務の執行状況を把握するため、当社の各部門長およびグループ会社の取締役・使用人等からの個別ヒアリングを定期的に行うとともに、稟議書等の重要文書の閲覧を行っています。

監査役と内部監査室は定期的に報告会を開催し、情報共有を図ることで、効率的な業務監査活動を運営しています。また、会計監査人であるEY新日本有限責任監査法人と定期的に意見交換会を開催し、業務上や会計上の課題について情報を共有するように努めています。

③ 社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は3名（男性2名、女性1名）、社外監査役4名（男性3名、女性1名）です。

社外取締役 周牧之氏は、経済に対する幅広い知識を有するため、当社の経営方針の決定や業務執行の監督などの役割を果たしていただけるものと認識しています。社外取締役 山本晶氏は、マーケティングや消費者行動に対する幅広い知識を有するため、当社の経営方針の決定や業務執行の監督などの役割を果たしていただけるものと認識しています。社外取締役 土屋了介氏は、医療業界における組織運営の知識と経験を有するため、当社の経営方針の決定や業務執行の監督などの役割を果たしていただけるものと認識しています。

社外監査役 武井実氏は、財務および会計に関して相当の知見、企業経営者としての豊富な経験を有するため、当社の財務報告の適正性に貢献していただけるものと認識しています。社外監査役 中村好伸氏は、弁護士資格を持ち、企業法務実務の経験が豊富であり、法務に関して相当の知見を有するため、当社の職務遂行の妥当性の確保に貢献していただけるものと認識しています。社外監査役 崎島一彦氏は、企業経営者として豊富な経験、幅広い知見を有するため、有効な助言に加え経営全般の監視に貢献していただけるものと認識しています。社外監査役 大矢和子氏は、他社取締役および監査役等の豊富な経験、幅広い知見を有するため、当社の監査に貢献していただけるものと認識しています。

当社は透明性の高い経営と強い経営監視機能を発揮するコーポレート・ガバナンス体制を確立し、企業価値の向上を図るため、社外役員の独立性判断基準を定めています。

<社外役員の独立性判断基準>

当社の社外役員（社外取締役および社外監査役）については、透明性の高い経営と強い経営監視機能を発揮するコーポレート・ガバナンス体制を確立し、企業価値の向上を図るため、その独立性を判断する基準を以下の通りとします。（以下のいずれにも該当しない者について独立性を有する者と判断します。）

1. 現在または過去10年間のいずれかにおいて、当社、当社の現在の子会社および関連会社（以下、あわせて「当社グループ」という。）の取締役（社外取締役を除く）、監査役（社外監査役を除く）、執行役員その他の使用人およびこれらに類する者（以下、あわせて「業務執行者等」という。）であった者
2. 現在または過去3年間のいずれかにおいて、以下a～jのいずれかに該当する者
 - a. 当社の主要株主（議決権所有割合10%以上の株主をいう。以下同じ。）、または当該株主が法人である場合には、その業務執行者等
 - b. 当社が主要株主である会社の業務執行者等
 - c. 当社グループを主要な取引先（その取引先の直近事業年度における年間連結総売上高の2%または1億円のいずれか高い方の額以上の支払いを当社グループから受けた者）とする者、またはその取引先が会社である場合には、その業務執行者等
 - d. 当社の主要な取引先（当社に対して、当社の直近事業年度における年間連結総売上高の2%以上の支払いを行っている者）、または、その者が会社である場合には、その業務執行者等
 - e. 当社グループから一定額（過去3事業年度の平均で年間1,000万円または当該組織の平均年間総費用の30%のいずれか大きい額）を超える寄付または助成を受けている者またはその者が各種団体等である場合には、その業務執行者等
 - f. 当社の大口債権者等、またはその者が会社である場合には、その業務執行者等
 - g. 当社グループの監査法人である公認会計士または監査法人に所属する者
 - h. 弁護士・公認会計士・税理士・その他コンサルタントとして、当社グループから役員報酬以外に、年間1,000万円以上の報酬を得ている者、またはその者が各種団体等である場合には、その業務執行者等
 - i. 上記a～hに該当する者（重要でない者を除く）の配偶者または2親等内の親族
 - j. 当社グループから役員（取締役または監査役をいう。以下同じ。）を受け入れている会社の役員
3. その他、当社的一般株主との間で上記1～2で考慮されている事由以外の事情で恒常的に実質的な利益相反が生じるおそれのある者
4. 仮に上記2のいずれかに該当する者であっても、実質的にみて一般株主と利益相反が生じるおそれがないと考える者については、当社は、当該者が会社法上の社外取締役または社外監査役の要件を充足しており、かつ、当該者が当社の独立役員として相応しいと考える理由を、対外的に説明することを条件に、当該者を当社の独立役員とすることができるものとする。

当社の社外取締役および社外監査役は、当社の定める独立性判断基準を充足していることから、いずれも独立役員に指定しています。

社外監査役による監査と内部監査および会計監査との相互連携の関係等については、上記「② 内部監査及び監査役監査」に記載のとおりです。

当社は、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）および監査役が期待される役割を十分に発揮できることを目的として、会社法第427条第1項の規定により、取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）および監査役との間に、任務を怠ったことによる損害賠償責任の限度額を同法第425条1第1項各号の合計額とする契約を締結することができる旨を定款に定めています。

④ 役員の報酬等

イ 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額および対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	ストック オプション	賞与	
取締役 (うち社外取締役)	175,732 (26,730)	115,936 (26,730)	19,918 (-)	39,878 (-)	8 (3)
監査役 (うち社外監査役)	40,650 (40,650)	40,650 (40,650)	- (-)	- (-)	5 (5)
合計	216,382	156,586	19,918	39,878	13

ロ 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上の取締役および監査役はいません。

ハ 使用人兼務役員の使用人給与のうち、重要なもの

該当事項はありません。

ニ 役員の報酬等の額の決定に関する方針

当社は、以下のとおり取締役および監査役の報酬等の内容の決定に関する方針を定めています。

・取締役の報酬に関する方針

取締役の報酬は、各事業年度における業績の向上および中長期的な企業価値の増大に向けて職責を負うことを考慮し、基本報酬、基本外報酬、ストックオプションで構成しています。基本報酬およびストックオプションは、各取締役の職位・役割に応じて決定し、基本報酬の一定割合は、担当部門の業績および個人の業績評価等に基づいて変動します。基本外報酬は、経営環境・当事業年度の当社業績に基づいて決定しています。

なお、社外取締役については、当社業績により変動することのない定額報酬のみを支給することとしています。

・監査役の報酬に関する方針

監査役の報酬は、監査役の協議にて決定しており、当社業績により変動することのない定額報酬のみを支給することとしています。

⑤ 株式の保有状況

イ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 22銘柄
 貸借対照表計上額の合計額 1,903,733千円

ロ 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、株式数、貸借対照表計上額および保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)昭文社	1,596,287	1,154,115	取引関係の維持・強化
ジョルダン(株)	189,900	197,685	取引関係の維持・強化
(株)ケースホールディングス	15,120	37,694	取引関係の維持・強化
上新電機(株)	9,000	34,380	取引関係の維持・強化
アーツパークホールディングス(株)	15,000	23,700	取引関係の維持・強化
GMOペイメントゲートウェイ(株)	1,200	8,448	取引関係の維持・強化
第一生命ホールディングス(株)	800	1,615	円滑な取引関係の維持

(当事業年度)
特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
(株)昭文社	1,596,287	1,067,916	取引関係の維持・強化
ジョルダン(株)	189,900	189,900	取引関係の維持・強化
(株)ケーズホールディングス	30,240	41,580	取引関係の維持・強化
アーツパークホールディングス(株)	15,000	19,500	取引関係の維持・強化
GMOペイメントゲートウェイ(株)	1,200	16,896	取引関係の維持・強化
上新電機(株)	4,500	15,075	取引関係の維持・強化
第一生命ホールディングス(株)	800	1,892	円滑な取引関係の維持

ハ 保有目的が純投資目的である投資株式

	前事業年度 (千円)	当事業年度 (千円)			
	貸借対照表 計上額の合計額	貸借対照表 計上額の合計額	受取配当金 の合計額	売却損益 の合計額	評価損益 の合計額
非上場株式	—	—	—	—	—
非上場株式 以外の株式	167,425	515,284	5,707	—	107,444

⑥ 会計監査の状況

当社の会計監査業務を執行した公認会計士は、會田将之、石井広幸の2名であり、両名ともにEY新日本有限責任監査法人に所属しています。それぞれの2018年9月末時点の継続監査年数は、1年(2018年1月～)、2年(2017年1月～)になります。

なお、当社の会計監査業務にかかる補助者は、公認会計士7名、他16名です。

⑦ 取締役会で決議できる株主総会決議事項

イ 自己株式取得

当社は、資本政策の遂行にあたって機動的に自己株式を取得できるようにすることを目的として、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって自己株式を取得できる旨を定款に定めています。

ロ 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うことを目的として、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって毎年3月31日を基準日として中間配当を行うことができる旨を定款に定めています。

⑧ 取締役の定数

当社は、取締役の定数について、10名以内とする旨を定款に定めています。

⑨ 取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨を定款に定めています。また、取締役の選任決議は、累積投票によらない旨を定款に定めています。

⑩ 株主総会の特別決議要件

当社は、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的として、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めています。

(2) 【監査報酬の内容等】

① 【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	38,500	—	38,500	—
連結子会社	—	—	7,320	—
計	38,500	—	45,820	—

② 【その他重要な報酬の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

③ 【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

前連結会計年度

該当事項はありません。

当連結会計年度

該当事項はありません。

④ 【監査報酬の決定方針】

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、監査日数、提出会社の規模・業務の特性等の要素を勘案し、決定しています。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1976年大蔵省令第28号)に基づいて作成しています。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(1963年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しています。

なお、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成していません。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2017年10月1日から2018年9月30日まで)の連結財務諸表および事業年度(2017年10月1日から2018年9月30日まで)の財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人により監査を受けています。

なお、従来、当社が監査証明を受けている新日本有限責任監査法人は、2018年7月1日に名称を変更し、EY新日本有限責任監査法人となりました。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みについて

当社は、企業会計等の内容を適切に把握できる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構に加入し、また、EY新日本有限責任監査法人が主催する研修会に参加するなど、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取り組みを行っています。

1 【連結財務諸表等】

(1) 【連結財務諸表】

① 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,133,961	10,504,223
受取手形及び売掛金	6,187,768	5,203,810
前渡金	235,169	262,446
前払費用	360,433	343,635
未収入金	117,087	111,205
未収還付法人税等	1,851	1,678
繰延税金資産	237,802	204,307
その他	157,067	178,239
貸倒引当金	△64,541	△45,477
流動資産合計	17,366,600	16,764,069
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	363,349	386,251
減価償却累計額	△267,565	△284,293
建物附属設備（純額）	95,784	101,958
工具、器具及び備品	499,831	528,533
減価償却累計額	△318,724	△367,170
工具、器具及び備品（純額）	181,107	161,363
有形固定資産合計	276,891	263,321
無形固定資産		
ソフトウェア	2,078,726	1,757,366
のれん	46,401	179,624
その他	73,803	39,524
無形固定資産合計	2,198,932	1,976,515
投資その他の資産		
投資有価証券	※1 2,437,544	※1 3,309,236
敷金及び保証金	526,887	498,282
繰延税金資産	1,018,159	1,058,161
その他	136,387	52,808
貸倒引当金	△63,532	△25,829
投資その他の資産合計	4,055,446	4,892,659
固定資産合計	6,531,270	7,132,496
資産合計	23,897,871	23,896,566

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,276,051	1,284,742
未払金	1,974,346	1,462,258
未払費用	430,329	453,382
未払法人税等	668,727	133,223
未払消費税等	108,033	173,050
ポイント引当金	148,536	141,777
役員賞与引当金	25,880	24,222
その他	251,825	281,508
流動負債合計	4,883,730	3,954,165
固定負債		
退職給付に係る負債	1,020,346	1,108,745
負ののれん	22,305	13,187
その他	34,111	12,043
固定負債合計	1,076,764	1,133,977
負債合計	5,960,494	5,088,142
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,069,848	5,100,464
資本剰余金	5,790,072	5,820,687
利益剰余金	9,311,231	10,080,581
自己株式	△3,148,848	△3,148,848
株主資本合計	17,022,303	17,852,885
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△12,646	88,583
為替換算調整勘定	△22,912	△24,956
退職給付に係る調整累計額	39,256	62,312
その他の包括利益累計額合計	3,697	125,939
新株予約権	297,991	332,830
非支配株主持分	613,383	496,768
純資産合計	17,937,376	18,808,423
負債純資産合計	23,897,871	23,896,566

②【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
売上高	30,933,963	29,075,702
売上原価	5,645,715	6,405,494
売上総利益	25,288,248	22,670,207
販売費及び一般管理費	※1,※2 21,234,559	※1,※2 19,452,191
営業利益	4,053,688	3,218,016
営業外収益		
受取利息	510	157
受取配当金	43,860	9,465
負ののれん償却額	9,117	9,117
為替差益	—	3,025
補助金収入	9,711	8,613
その他	24,163	23,559
営業外収益合計	87,363	53,939
営業外費用		
支払利息	609	175
持分法による投資損失	148,296	100,741
為替差損	7,507	—
その他	12,177	54,722
営業外費用合計	168,591	155,639
経常利益	3,972,461	3,116,316
特別利益		
段階取得に係る差益	693,816	96,636
固定資産売却益	—	※3 734
投資有価証券売却益	154,911	60,002
持分変動利益	—	32,968
新株予約権戻入益	4,315	10,632
特別利益合計	853,043	200,975
特別損失		
減損損失	※4 230,822	※4 100,190
固定資産除却損	※5 87,447	※5 147,825
投資有価証券評価損	236,158	185,008
関係会社株式評価損	11,719	—
関係会社株式売却損	—	1,870
のれん償却額	※6 1,399,033	※6 730,513
和解金	108,817	55,827
特別損失合計	2,074,000	1,221,236
税金等調整前当期純利益	2,751,504	2,096,055
法人税、住民税及び事業税	1,576,198	817,667
法人税等調整額	△130,001	△64,192
法人税等合計	1,446,197	753,474
当期純利益	1,305,307	1,342,581
非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△128,900	△286,496
親会社株主に帰属する当期純利益	1,434,207	1,629,077

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
当期純利益	1,305,307	1,342,581
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△75,505	101,230
為替換算調整勘定	25,478	△1,124
退職給付に係る調整額	180,805	23,055
持分法適用会社に対する持分相当額	995	△419
その他の包括利益合計	※1 131,773	※1 122,742
包括利益	1,437,080	1,465,323
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	1,557,133	1,751,319
非支配株主に係る包括利益	△120,052	△285,996

③【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,012,181	5,834,419	8,727,679	△2,148,888	17,425,392
当期変動額					
新株の発行(新株予約権の行使)	57,667	57,667			115,334
剰余金の配当			△880,560		△880,560
親会社株主に帰属する当期純利益			1,434,207		1,434,207
自己株式の取得				△999,959	△999,959
連結子会社持分の増減		△102,014			△102,014
その他			29,903		29,903
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	57,667	△44,347	583,551	△999,959	△403,088
当期末残高	5,069,848	5,790,072	9,311,231	△3,148,848	17,022,303

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	65,027	△42,706	△141,548	△119,227	132,236	414,550	17,852,951
当期変動額							
新株の発行(新株予約権の行使)							115,334
剰余金の配当							△880,560
親会社株主に帰属する当期純利益							1,434,207
自己株式の取得							△999,959
連結子会社持分の増減							△102,014
その他							29,903
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△77,674	19,794	180,805	122,925	165,754	198,833	487,513
当期変動額合計	△77,674	19,794	180,805	122,925	165,754	198,833	84,424
当期末残高	△12,646	△22,912	39,256	3,697	297,991	613,383	17,937,376

当連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	5,069,848	5,790,072	9,311,231	△3,148,848	17,022,303
当期変動額					
新株の発行(新株予約権の行使)	30,615	30,615			61,231
剰余金の配当			△872,650		△872,650
親会社株主に帰属する当期純利益			1,629,077		1,629,077
連結範囲の変動			12,923		12,923
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	30,615	30,615	769,350	—	830,581
当期末残高	5,100,464	5,820,687	10,080,581	△3,148,848	17,852,885

	その他の包括利益累計額				新株予約権	非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益累計額合計			
当期首残高	△12,646	△22,912	39,256	3,697	297,991	613,383	17,937,376
当期変動額							
新株の発行(新株予約権の行使)							61,231
剰余金の配当							△872,650
親会社株主に帰属する当期純利益							1,629,077
連結範囲の変動							12,923
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	101,230	△2,044	23,055	122,241	34,839	△116,615	40,465
当期変動額合計	101,230	△2,044	23,055	122,241	34,839	△116,615	871,047
当期末残高	88,583	△24,956	62,312	125,939	332,830	496,768	18,808,423

④【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	2,751,504	2,096,055
減価償却費	1,780,455	1,700,400
減損損失	230,822	100,190
のれん償却額	1,415,921	865,005
負ののれん償却額	△9,117	△9,117
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	36,923	△56,779
ポイント引当金の増減額 (△は減少)	△39,824	△6,759
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	155,309	118,674
受取利息及び受取配当金	△44,371	△9,623
支払利息	609	175
段階取得に係る差損益 (△は益)	△693,816	△96,636
持分法による投資損益 (△は益)	148,296	100,741
和解金	108,817	55,827
持分変動損益 (△は益)	—	△32,968
固定資産除却損	87,447	147,825
固定資産売却損益 (△は益)	—	△734
投資有価証券評価損益 (△は益)	236,158	185,008
投資有価証券売却損益 (△は益)	△154,911	△60,002
関係会社株式評価損	11,719	—
関係会社株式売却損益 (△は益)	—	1,870
新株予約権戻入益	△4,315	△10,632
売上債権の増減額 (△は増加)	288,819	937,884
前渡金の増減額 (△は増加)	335,161	△27,008
前払費用の増減額 (△は増加)	69,949	16,122
未収入金の増減額 (△は増加)	△32,415	△397
仕入債務の増減額 (△は減少)	△56,742	69,963
未払金の増減額 (△は減少)	△477,086	△468,016
未払費用の増減額 (△は減少)	△91,224	20,162
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△198,300	64,125
その他	△140,054	186,493
小計	5,715,736	5,887,847
利息及び配当金の受取額	44,371	59,722
利息の支払額	△609	△175
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△2,256,232	△1,314,352
和解金の支払額	△60,817	△83,990
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,442,447	4,549,052

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△144,442	△138,845
有形固定資産の売却による収入	—	1,700
無形固定資産の取得による支出	△1,708,506	△1,444,293
投資有価証券の取得による支出	△2,044,975	△887,763
投資有価証券の売却による収入	152,100	60,003
投資有価証券の償還による収入	249,975	—
関係会社株式の取得による支出	△120,000	△190,609
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	※2 △209,149	※2 △680,265
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	△26,373
事業譲受による支出	△47,901	△18,500
敷金及び保証金の回収による収入	1,125	4,466
その他	△2,644	△2,357
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,874,417	△3,322,839
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	△165,934	△9,880
株式の発行による収入	88,435	48,662
自己株式の取得による支出	△1,002,724	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△101,600	—
配当金の支払額	△880,560	△872,650
その他	△5,975	△21,446
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,068,358	△855,314
現金及び現金同等物に係る換算差額	21,277	△636
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△2,479,050	370,261
現金及び現金同等物の期首残高	12,613,012	10,133,961
現金及び現金同等物の期末残高	※1 10,133,961	※1 10,504,223

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

連結子会社は、下記の24社であり、すべての子会社を連結しています。

(株)テラモバイル

(株)フィル

(株)ミュージック・ドット・ジェイピー

(株)コミックジェイピー

(株)ムーバイル

Automagi(株)

(株)メディアアーノ

MShift, Inc.

(株)エバージーン

(株)ソニックノート

(株)ファルモ

(株)カラダメディカ

(株)エムティーアイヘルスケアラボ

MTI TECHNOLOGY Co., Ltd

(株)ビデオマーケット

(株)MGSHD

SPSHD(株)

MTI FINTECH LAB LTD

クリニカル・プラットフォーム(株)

(株)PV

(株)i-see

(株)ココマミー

(株)ソラミチシステム

モチベーションワークス(株)

前連結会計年度において連結子会社であったクライム・ファクトリー(株)は、当社を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しています。

前連結会計年度において連結子会社であった(株)ZERO-Aは、当該会社の株式をすべて売却したことにより、連結の範囲から除外しています。

クリニカル・プラットフォーム(株)は、当連結会計年度に当該会社の株式を追加取得したことにより、連結の範囲に含めています。

(株)PV、(株)i-seeおよび(株)ココマミーは、当連結会計年度に当該会社の株式を取得したことにより、連結の範囲に含めています。

(株)ソラミチシステムおよびモチベーションワークス(株)は、新規設立に伴い、当連結会計年度より連結の範囲に含めています。

2 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した関連会社数

6社

上海海隆宜通信息技术有限公司

(株)スタージェン

(株)スマートメド

(株)Authlete

Mebifarm Holdings Ltd.

クラウドキャスト(株)

Mebifarm Holdings Ltd. およびクラウドキャスト(株)は、当連結会計年度に当該会社の株式を取得したことにより、持分法適用の範囲に含めています。

(2) 持分法を適用しない関連会社の名称

livepass(株)

持分法を適用しない理由

持分法非適用会社は、当期純利益および利益剰余金等に及ぼす影響が軽微であり、かつ全体としても重要性がないため、持分法の適用範囲から除外しています。

(3) 持分法の適用の手続について特に記載する必要があると認められる事項

持分法適用会社のうち、決算日が異なる会社については、連結決算日現在又は連結決算日の前月末日現在で実施した仮決算により作成した財務諸表を使用しています。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、MShift, Inc. および(株)ビデオマーケットの決算日は12月31日です。連結財務諸表の作成にあたっては、連結決算日の前月末日現在または連結決算日現在で実施した仮決算により作成した財務諸表を使用しています。なお、その他の連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しています。

4 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準および評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

連結決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しています。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は主として移動平均法により算定しています。)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しています。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却方法

① 有形固定資産

定率法を採用しています。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は次のとおりです。

建物附属設備 3～18年

工具、器具及び備品 3～20年

② 無形固定資産

ソフトウェア

自社利用のソフトウェア

自社における利用可能期間(2～5年)に基づく定額法を採用しています。

- ③ 長期前払費用
定額法を採用しています。
- (3) 重要な引当金の計上基準
- ① 貸倒引当金
債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しています。
- ② ポイント引当金
当社グループが提供するコンテンツ配信サービスの会員に付与したポイント等の使用により今後発生する売上原価について、当連結会計年度末において将来発生すると見込まれる額を計上しています。
- ③ 役員賞与引当金
役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当連結会計年度に見合う分を計上しています。
- (4) 退職給付に係る会計処理の方法
- ① 退職給付見込額の期間帰属方法
退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。
- ② 数理計算上の差異の費用処理方法
数理計算上の差異は、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により、発生の翌連結会計年度から費用処理しています。
- (5) 重要な外貨建の資産または負債の本邦通貨への換算基準
外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しています。
なお、在外子会社および在外持分法適用会社の資産、負債、収益および費用は、当該在外子会社および在外持分法適用会社の仮決算日における直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めています。
- (6) のれんの償却方法および償却期間
のれんおよび2010年9月30日以前に発生した負ののれんの償却については、その効果の発現する期間を個別に見積り、償却期間を決定した上で均等償却することとしています。
- (7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲
手許現金、随時引き出し可能な預金および容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっています。
- (8) その他重要な事項
消費税等の会計処理方法
税抜方式によっています。

(未適用の会計基準等)

- ・「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2018年2月16日)
- ・「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 2018年2月16日)

(1) 概要

個別財務諸表における子会社株式等に係る将来加算一時差異の取扱いが見直され、また(分類1)に該当する企業における繰延税金資産の回収可能性に関する取扱いの明確化が行われています。

(2) 適用予定日

2019年9月期の期首より適用する予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

- ・「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2018年3月30日)
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第30号 2018年3月30日)

(1) 概要

収益認識に関する包括的な会計基準です。収益は、次の5つのステップを適用し認識されます。

ステップ1: 顧客との契約を識別する。

ステップ2: 契約における履行義務を識別する。

ステップ3: 取引価格を算定する。

ステップ4: 契約における履行義務に取引価格を配分する。

ステップ5: 履行義務を充足した時に又は充足するにつれて収益を認識する。

(2) 適用予定日

2022年9月期の期首より適用する予定です。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

影響額は、当連結財務諸表の作成時において評価中です。

(表示方法の変更)

前連結会計年度において、連結貸借対照表および連結キャッシュ・フロー計算書に掲記しておりました「コイン等引当金」は、その実態をより適切に表示するため当連結会計年度より「ポイント引当金」に名称を変更して表示しています。

(連結貸借対照表関係)

※1 非連結子会社および関連会社に対する資産

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
投資有価証券	130,134千円	247,996千円

- 2 当社および連結子会社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座貸越契約を締結しています。これら契約に基づく当連結会計年度末の借入未実行残高は次のとおりです。

なお、前連結会計年度は、当社が取引銀行6行と当座貸越契約を締結していました。

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
当座貸越極度額	3,350,000千円	3,550,000千円
借入実行残高	－千円	－千円
差引額	3,350,000千円	3,550,000千円

(連結損益計算書関係)

※1 販売費及び一般管理費のうち主な費目および金額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
販売促進費	185,508千円	205,643千円
広告宣伝費	5,746,940千円	4,401,666千円
役員報酬	359,813千円	347,980千円
給料及び手当	3,636,856千円	3,687,884千円
雑給派遣費	294,922千円	307,601千円
役員賞与引当金繰入額	25,880千円	24,222千円
退職給付費用	190,441千円	137,029千円
福利厚生費	731,451千円	760,214千円
外注費	1,432,445千円	950,482千円
支払手数料	3,698,562千円	3,622,066千円
地代家賃	773,710千円	816,163千円
賃借料	43,786千円	32,896千円
減価償却費	1,690,339千円	1,639,050千円
貸倒引当金繰入額	70,799千円	63,152千円

※2 一般管理費に含まれる研究開発費の総額は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
	264,814千円	103,065千円

※3 固定資産売却益は、主に工具器具備品の売却によるものです。

※4 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しました。

前連結会計年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

場所	用途	種類	減損損失(千円)
東京都新宿区	事業用資産	ソフトウェア	230,822

当社グループは、コンテンツ配信事業を単一の事業として行っていることから、事業用資産については当社グループ全体をキャッシュ・フロー生成単位として識別し、グルーピングを行っています。

ただし、処分予定の資産や事業の用に供していない遊休資産等については、個別に取り扱っています。

上記事業用資産のソフトウェアについては、収益性が低下し投資額の回収が見込めなくなったこと等から、回収

可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しています。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により算定していますが、将来キャッシュ・フローが見込めない等の事由により、具体的な割引率は算定せず、使用価値を零として減損損失を測定しています。

当連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

場所	用途	種類	減損損失(千円)
東京都新宿区、港区	事業用資産	ソフトウェア	59,335
東京都新宿区、港区	事業用資産	建物附属設備および 工具器具備品等	39,335
東京都新宿区	事業用資産	長期前払費用	1,520

当社グループは、コンテンツ配信事業を単一の事業として行っており、事業用資産については当社および連結子会社等の各社それぞれを一つのキャッシュ・フロー生成単位として識別し、グルーピングを行っています。

また、処分予定の資産や事業の用に供していない遊休資産等については、個別に取り扱っています。

当社のソフトウェアについては、収益性が低下し投資額の回収が見込めなくなったこと等から、回収可能価額まで減額し、当該減少額52,435千円を減損損失として認識しています。

連結子会社の㈱ビデオマーケットについては、営業損益および営業キャッシュフローが継続してマイナスであることが見込まれること等から保有する固定資産を回収可能額まで減額し、当該減少額33,635千円を減損損失として認識しており、その内訳は建物附属設備20,232千円、工具器具備品13,192千円およびソフトウェア210千円です。

連結子会社のクリニカル・プラットフォーム㈱については、営業損益および営業キャッシュフローが継続してマイナスであることが見込まれること等から保有する固定資産を回収可能額まで減額し、当該減少額13,947千円を減損損失として認識しており、その内訳は建物附属設備3,395千円、工具器具備品2,343千円、ソフトウェア6,689千円および長期前払費用1,520千円です。

なお、当該資産グループの回収可能価額は使用価値により算定していますが、将来キャッシュ・フローが見込めない等の事由により、具体的な割引率は算定せず、使用価値を零として減損損失を測定しています。

また、上記以外の減損損失は、重要性は乏しいため、記載を省略しています。

※5 固定資産除却損は、主にソフトウェアの除却によるものです。

※6 のれん償却額

前連結会計年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

のれん償却額は、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会 2014年11月28日会計制度委員会報告第7号)第32項の規定に基づき、連結子会社株式の減損処理に伴って、のれんを償却したものです。

当連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

のれん償却額は、「連結財務諸表における資本連結手続に関する実務指針」(日本公認会計士協会 2014年11月28日会計制度委員会報告第7号)第32項の規定に基づき、連結子会社株式の減損処理に伴って、のれんを償却したものです。

(連結包括利益計算書関係)

※1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	△147,688千円	143,764千円
組替調整額	36,158千円	－千円
税効果調整前	△111,529千円	143,764千円
税効果額	36,023千円	△42,534千円
その他有価証券評価差額金	△75,505千円	101,230千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	25,478千円	△1,124千円
組替調整額	－千円	－千円
税効果調整前	25,478千円	△1,124千円
税効果額	－千円	－千円
為替換算調整勘定	25,478千円	△1,124千円
退職給付に係る調整額		
当期発生額	234,364千円	30,275千円
組替調整額	26,402千円	2,966千円
税効果調整前	260,767千円	33,241千円
税効果額	△79,961千円	△10,185千円
退職給付に係る調整額	180,805千円	23,055千円
持分法適用会社に対する持分相当額		
当期発生額	995千円	△419千円
その他の包括利益合計	131,773千円	122,742千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	60,549,200株	305,200株	一株	60,854,400株

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりです。

新株予約権の権利行使による新株の発行による増加 305,200株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	4,925,228株	1,407,900株	一株	6,333,128株

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりです。

市場買付による取得 1,407,900株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストックオプションとしての第17回新株予約権(2013年2月22日発行)	—	—	—	—	—	14,931
提出会社	ストックオプションとしての第18回新株予約権(2014年2月21日発行)	—	—	—	—	—	30,100
提出会社	ストックオプションとしての第19回新株予約権(2015年5月19日発行)	—	—	—	—	—	44,557
提出会社	ストックオプションとしての第20回新株予約権(2016年2月16日発行)	—	—	—	—	—	57,389
提出会社	ストックオプションとしての第21回新株予約権(2016年3月30日発行)	—	—	—	—	—	4,892
提出会社	ストックオプションとしての第22回新株予約権(2017年5月17日発行)	—	—	—	—	—	13,776
連結子会社	ストックオプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	132,343
合計			—	—	—	—	297,991

(注) 第20回、第21回および第22回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2016年12月23日 定時株主総会	普通株式	444,991	8	2016年9月30日	2016年12月26日
2017年4月27日 取締役会	普通株式	435,568	8	2017年3月31日	2017年6月12日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年12月23日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	436,170	8	2017年9月30日	2017年12月25日

当連結会計年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	60,854,400株	162,000株	一株	61,016,400株

(変動事由の概要)

増加数の内訳は、次のとおりです。

新株予約権の権利行使による新株の発行による増加

162,000株

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式	6,333,128株	一株	一株	6,333,128株

3 新株予約権等に関する事項

会社名	内訳	目的となる株式の種類	目的となる株式の数(株)				当連結会計年度末残高(千円)
			当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末	
提出会社	ストックオプションとしての第18回新株予約権(2014年2月21日発行)	—	—	—	—	—	25,812
提出会社	ストックオプションとしての第19回新株予約権(2015年5月19日発行)	—	—	—	—	—	42,951
提出会社	ストックオプションとしての第20回新株予約権(2016年2月16日発行)	—	—	—	—	—	68,514
提出会社	ストックオプションとしての第21回新株予約権(2016年3月30日発行)	—	—	—	—	—	5,431
提出会社	ストックオプションとしての第22回新株予約権(2017年5月17日発行)	—	—	—	—	—	46,238
提出会社	ストックオプションとしての第23回新株予約権(2018年5月17日発行)	—	—	—	—	—	11,538
連結子会社	ストックオプションとしての新株予約権	—	—	—	—	—	132,343
合計			—	—	—	—	332,830

(注) 第22回および第23回新株予約権は、権利行使期間の初日が到来していません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2017年12月23日 定時株主総会	普通株式	436,170	8	2017年9月30日	2017年12月25日
2018年4月27日 取締役会	普通株式	436,480	8	2018年3月31日	2018年6月11日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年12月22日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	437,466	8	2018年9月30日	2018年12月25日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
現金及び預金勘定	10,133,961千円	10,504,223千円
預入期間が3ヶ月を超える 定期預金	－千円	－千円
現金及び現金同等物	10,133,961千円	10,504,223千円

※2 株式の取得により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

株式の取得により新たに(株)ビデオマーケットを連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の内訳ならびに株式の取得価額と取得による支出との関係は次のとおりです。

流動資産	1,417,815千円
固定資産	73,317千円
のれん	1,399,033千円
流動負債	△502,320千円
固定負債	△104,941千円
新株予約権	△132,184千円
非支配株主持分	△318,970千円
株式の取得価額	1,831,750千円
支配獲得時までの持分法評価額	△25,433千円
段階取得による差益	△693,816千円
現金及び現金同等物	△903,350千円
差引：取得による支出	209,149千円

当連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

株式の取得により新たに(株)クリニカル・プラットフォームを連結したことに伴う連結開始時の資産および負債の内訳ならびに株式の取得価額と取得による支出との関係は次のとおりです。

流動資産	409,995千円
固定資産	26,798千円
のれん	811,681千円
流動負債	△48,607千円
固定負債	△9,880千円
非支配株主持分	△185,907千円
株式の取得価額	1,004,080千円
支配獲得時までの既取得価額	△1,923千円
段階取得による差益	△96,636千円
現金及び現金同等物	△399,896千円
差引：取得による支出	505,624千円

なお、(株)PV、(株)i-seeおよび(株)ココマミーは連結財務諸表に与える金額の重要性が乏しいため注記の記載を省略しています。

(リース取引関係)

オペレーティング・リース取引（借主側）

重要性が乏しいため、記載を省略しています。

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定し、銀行等金融機関からの借入により資金を調達しています。

(2) 金融商品の内容およびそのリスク

売掛金に係る顧客の信用リスクは、債権管理規程に沿ってリスク低減を図っています。また、投資有価証券は定期的に発行会社の財政状態等を把握しています。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

①信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、経理規程および債権管理規程に従い、営業債権について、取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っています。

②市場リスク（金利等の変動リスク）の管理

有価証券および投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握しています。

③資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払を実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各グループからの報告に基づき管理部門が適時に資金繰り計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しています。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価額に基づく価額のほか、市場価額がない場合には合理的に算定された価額が含まれています。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次のとおりです。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めていません。

前連結会計年度（2017年9月30日）

	連結貸借対照表 計上額（千円）	時価 （千円）	差額 （千円）
(1) 現金及び預金	10,133,961	10,133,961	—
(2) 受取手形及び売掛金	6,187,768	6,187,768	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	2,059,681	2,059,681	—
資産計	18,381,411	18,381,411	—
(4) 買掛金	1,276,051	1,276,051	—
(5) 未払金	1,974,346	1,974,346	—
(6) 未払法人税等	668,727	668,727	—
負債計	3,919,124	3,919,124	—

当連結会計年度（2018年9月30日）

	連結貸借対照表 計上額（千円）	時価 （千円）	差額 （千円）
(1) 現金及び預金	10,504,223	10,504,223	—
(2) 受取手形及び売掛金	5,203,810	5,203,810	—
(3) 投資有価証券 その他有価証券	2,501,986	2,501,986	—
資産計	18,210,019	18,210,019	—
(4) 買掛金	1,284,742	1,284,742	—
(5) 未払金	1,462,258	1,462,258	—
(6) 未払法人税等	133,223	133,223	—
負債計	2,880,224	2,880,224	—

(注) 1 金融商品の時価の算定方法および有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

(3) 投資有価証券

投資有価証券は株式であり、市場性のある有価証券については、市場価額により公正価値を評価しています。

また、市場性のない有価証券については、公正価値を見積ることが実務上困難であるため、「投資有価証券」には含めていません。

負債

(4) 買掛金、(5) 未払金、(6) 未払法人税等

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっています。

2 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
非上場株式	377,863	807,250

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(3) 投資有価証券」には含めていません。

前連結会計年度において、非上場株式について247,878千円の減損処理を行っています。

当連結会計年度において、非上場株式について185,008千円の減損処理を行っています。

3 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度 (2017年9月30日)

	1年以内 (千円)
現金及び預金	10,133,961
受取手形及び売掛金	6,187,768
合計	16,321,730

当連結会計年度 (2018年9月30日)

	1年以内 (千円)
現金及び預金	10,504,223
受取手形及び売掛金	5,203,810
合計	15,708,033

(有価証券関係)

1 その他有価証券

前連結会計年度(2017年9月30日)

区分	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1)株式	361,081	193,331	167,749
(2)債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
(3)その他	—	—	—
小計	361,081	193,331	167,749
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
(1)株式	1,698,600	1,905,352	△206,752
(2)債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
(3)その他	—	—	—
小計	1,698,600	1,905,352	△206,752
合計	2,059,681	2,098,684	△39,002

(注) 表中(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額です。
また、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っています。なお、当連結会計年度において、減損処理を行った市場性のあるその他有価証券はありません。

当連結会計年度（2018年9月30日）

区分	連結貸借対照表 計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えるもの			
(1)株式	647,952	382,676	265,275
(2)債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
(3)その他	—	—	—
小計	647,952	382,676	265,275
連結貸借対照表計上額が取得原価を 超えないもの			
(1)株式	1,854,033	2,043,405	△189,372
(2)債券			
国債・地方債等	—	—	—
社債	—	—	—
その他	—	—	—
(3)その他	—	—	—
小計	1,854,033	2,043,405	△189,372
合計	2,501,986	2,426,082	75,903

(注) 表中(連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの)の「取得原価」は減損処理後の帳簿価額です。
また、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30～50%程度下落した場合には、当該金額の重要性、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っています。なお、当連結会計年度において、減損処理を行った市場性のあるその他有価証券はありません。

2 保有目的を変更した有価証券

当連結会計年度において、従来、その他有価証券で保有していたクリニカル・プラットフォーム㈱の株式を追加取得したことにより子会社株式に変更しております。

3 連結会計年度中に売却したその他有価証券

該当事項はありません。

4 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度において、有価証券(その他有価証券の株式)について236,158千円減損処理を行っています。
当連結会計年度において、有価証券(その他有価証券の株式)について185,008千円減損処理を行っています。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1 採用している退職給付制度の概要

当社および連結子会社は、確定給付型の制度として、退職一時金制度を採用しています。

2 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
退職給付債務の期首残高	1,099,402	1,020,346
勤務費用	161,840	132,022
利息費用	2,198	2,040
数理計算上の差異の発生額	△234,364	△30,275
退職給付の支払額	△8,730	△15,389
退職給付債務の期末残高	1,020,346	1,108,745

(2) 退職給付債務の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債および退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
非積立型制度の退職給付債務	1,020,346	1,108,745
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,020,346	1,108,745

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
退職給付に係る負債	1,020,346	1,108,745
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	1,020,346	1,108,745

(3) 退職給付費用およびその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
勤務費用	161,840	132,022
利息費用	2,198	2,040
数理計算上の差異の費用処理額	26,402	2,966
確定給付制度に係る退職給付費用	190,441	137,029

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
数理計算上の差異	260,767	33,241
合計	260,767	33,241

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりです。

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
未認識数理計算上の差異	△56,571	△89,812
合計	△56,571	△89,812

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎（加重平均で表わしています。）

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
割引率	0.2%	0.3%
予想昇給率	2.0%	2.0%

(ストックオプション等関係)

1 スtockオプション等にかかる費用計上額および科目名

	前連結会計年度	当連結会計年度
販売費及び一般管理費の 株式報酬費用	64,776千円	58,039千円

2 権利不行使による失効により利益として計上した金額

	前連結会計年度	当連結会計年度
特別利益 (新株予約権戻入益)	4,315千円	10,632千円

3 ストックオプション等の内容、規模及びその変動状況

提出会社および連結子会社

(1) ストックオプション等の内容

会社名	提出会社		提出会社		提出会社		提出会社	
回号	第17回新株予約権		第18回新株予約権		第19回新株予約権		第20回新株予約権	
取締役会決議年月日	2013年2月6日		2014年2月5日		2015年5月1日		2016年1月29日	
付与対象者の区分及び人数	当社取締役	7名	当社取締役	7名	当社取締役	7名	当社取締役	5名
	当社使用人	109名	当社使用人	107名	当社使用人	107名	当社使用人	119名
株式の種類別のストック・オプション付与数(注)1	普通株式	801,600株	普通株式	375,600株	普通株式	157,100株	普通株式	335,700株
付与日	2013年2月22日		2014年2月21日		2015年5月19日		2016年2月16日	
権利確定条件	付与日(2013年2月22日)から権利確定日(2015年2月28日)まで継続して勤務していること		付与日(2014年2月21日)から権利確定日(2016年2月29日)まで継続して勤務していること		付与日(2015年5月19日)から権利確定日(2017年5月31日)まで継続して勤務していること		付与日(2016年2月16日)から権利確定日(2018年2月28日)まで継続して勤務していること	
対象勤務期間	2013年2月22日～ 2015年2月28日		2014年2月21日～ 2016年2月29日		2015年5月19日～ 2017年5月31日		2016年2月16日～ 2018年2月28日	
権利行使期間※	2015年3月1日～ 2018年9月30日		2016年3月1日～ 2019年9月30日		2017年6月1日～ 2020年9月30日		2018年3月1日～ 2021年9月30日	
新株予約権の数(個)※	—		584 [582]		1,390		2,966	
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および数(注)1、2※	—		普通株式 233,600株 [232,800株]		普通株式 139,000株		普通株式 296,600株	
新株予約権の行使時の払込金額(円)(注)1、3※	—		455		859		699	
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額(円)(注)1※	—		発行価格 455 資本組入額 228		発行価格 859 資本組入額 430		発行価格 699 資本組入額 350	
新株予約権の行使の条件※	—		(注)4		同左		同左	
新株予約権の譲渡に関する事項※	—		譲渡をするには、取締役会の承認を要する。		同左		同左	
組織再編成行使に伴う新株予約権の交付に関する事項(注)1※	—		(注)5		同左		同左	

会社名	提出会社		提出会社		提出会社	
回号	第21回新株予約権		第22回新株予約権		第23回新株予約権	
取締役会決議年月日	2016年3月8日		2017年4月27日		2018年4月27日	
付与対象者の区分及び人数	子会社取締役 子会社使用人	10名 4名	当社取締役 当社使用人 子会社取締役 子会社使用人	5名 133名 11名 6名	当社取締役 当社使用人 子会社取締役	5名 136名 2名
株式の種類及び付与数	普通株式	23,800株	普通株式	391,300株	普通株式	369,000株
付与日	2016年3月30日		2017年5月17日		2018年5月17日	
権利確定条件	付与日(2016年3月30日)から権利確定日(2018年3月31日)まで継続して勤務していること		付与日(2017年5月17日)から権利確定日(2019年5月31日)まで継続して勤務していること		付与日(2018年5月17日)から権利確定日(2020年5月31日)まで継続して勤務していること	
対象勤務期間	2016年3月30日～ 2018年3月31日		2017年5月17日～ 2019年5月31日		2018年5月17日～ 2020年5月31日	
権利行使期間	2018年4月1日～ 2021年9月30日		2019年6月1日～ 2022年9月30日		2020年6月1日～ 2023年9月30日	
新株予約権の数(個) ※	186		3,574		3,653	
新株予約権の目的となる株式の種類、内容および数 (注) 1、2 ※	普通株式 18,600株		普通株式 357,400株		普通株式 365,300株	
新株予約権の行使時の払込金額(円) (注) 1、3 ※	782		678		690	
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額(円) (注) 1 ※	発行価格 782 資本組入額 391		発行価格 678 資本組入額 339		発行価格 690 資本組入額 345	
新株予約権の行使の条件 ※	(注) 4		同左		同左	
新株予約権の譲渡に関する事項 ※	譲渡をするには、取締役会の承認を要する。		同左		同左	
組織再編成行使に伴う新株予約権の交付に関する事項 ※	(注) 5		同左		同左	

※ 当連結会計年度における内容を記載しています。なお、当連結会計年度の末日から有価証券報告書提出日の属する月の前月末（2018年11月30日）現在にかけて変更された事項については、提出日の前月末現在における内容を [] 内に記載しており、その他の事項については当連結会計年度の末日における内容から変更はありません。

(注) 1 株式数に換算して記載しております。なお、提出会社は、2013年4月1日付株式分割（普通株式1株につき100株の割合）、2014年4月1日付株式分割（普通株式1株につき2株の割合）および2015年4月1日付株式分割（普通株式1株につき2株の割合）を行いましたので、当該株式分割を反映した数値を記載しております。

2 新株予約権1個当たりの目的である株式の数（以下「付与株式数」という。）は100株とする。なお、新株予約権を割り当てる日（以下「割当日」という。）後、当社が株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。）または株式併合を行う場合、次の算式により付与株式数を調整し、1株未満の端数は切り捨てる。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整を必要とするやむを得ない事由が生じた場合、合理的な範囲で目的である付与株式数を調整する。

3 本新株予約権発行日以降、以下の事由が生じた場合は行使価額を調整する。

① 当社が株式分割または株式併合を行う場合、それぞれの効力発生の時をもって次の算式により行使価額を調整し、調整により生じた1円未満の端数は切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

② 当社が時価を下回る価額で新株の発行または自己株式の処分を行う場合（本新株予約権の行使による場合を除く）、次の算式により行使価額を調整し、調整により生じた1円未満の端数は切り上げる。ただし、算式中「既発行株式数」には新株発行等の前において会社が保有する自己株式数は含まない。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行(処分)株式数} \times \text{1株当たり払込(処分)金額}}{\text{新規発行(処分)前の時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行(処分)による増加株式数}}$$

③ 当社が他社と吸収合併もしくは新設合併を行い、本件新株予約権が承継される場合、または当社が新設分割もしくは吸収分割を行う場合、その他これらの場合に準じ行使価額の調整を必要とする場合は、合理的な範囲で適切に行使価額を調整する。

4 ① 新株予約権者は、権利行使時においても、当社、当社の子会社または当社の関連会社の取締役、監査役または従業員のいずれかの地位を有することを要する。ただし、任期満了による退任、定年退職、その他新株予約権者の退任または退職後の権利行使につき正当な理由があると取締役会が認めた場合は、この限りでない。

② 新株予約権者が死亡した場合、新株予約権者の相続人による新株予約権の行使は認めないものとし、当該新株予約権は会社法第287条の定めに基づき消滅するものとする。

③ 新株予約権者は、その割当数の一部または全部を行使することができる。ただし、新株予約権の1個未満の行使はできないものとする。

④ 新株予約権者が当社、当社の子会社または当社の関連会社の取締役、監査役または従業員のいずれの地位も有しなくなった場合、当社は、取締役会で当該新株予約権の権利行使を認めることがない旨の決議をすることができる。この場合においては、当該新株予約権は会社法第287条の定めに基づき消滅するものとする。

5 当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る）、吸収分割、新設分割、株式交換または株式移転（以上を総称して以下「組織再編行為」という）をする場合において、組織再編行為の効力発生時点において残存する新株予約権（以下「残存新株予約権」という）の新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下「再編対象会社」という）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。この場合においては、残存新株予約権は消滅し、再編対象会社は新株予約権を交付する旨およびその比率を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約および株式移転計画において定めた場合に限るものとする。

(追加情報)

「第4提出会社の状況 1 株式の状況 (2) 新株予約権の状況 ①ストックオプション制度の内容」に記載すべき事項をストック・オプション等関係注記に集約して記載しております。

会社名	㈱ビデオマーケット		㈱ビデオマーケット		㈱ビデオマーケット		㈱ビデオマーケット	
回号	第6回新株予約権		第7回新株予約権		第8回新株予約権		第10回新株予約権	
取締役会決議年月日	2010年3月9日		2013年5月31日		2013年5月31日		2013年9月25日	
付与対象者の区分及び人数	同社取引先	1社	同社取締役 同社監査役	3名 1名	同社使用人	7名	同社使用人	1名
株式の種類及び付与数	普通株式	1,000株	普通株式	3,000株	普通株式	128株	普通株式	10株
付与日	2010年3月10日		2013年6月27日		2013年6月27日		2013年9月30日	
権利確定条件	同社が、上場審査手続を開始した場合には、その手続開始時において権利者が有する全ての新株予約権を行使しなければならない。この場合、上場審査手続開始時において、権利者がその有する全ての新株予約権を行使しなかったときには、新株予約権は権利を放棄したものとみなす。		同社または同社子会社の取締役、監査役、執行役員、従業員ならびに顧問、その他名目の如何を問わず同社との間で委任、請負等の継続的な契約関係にある地位にある場合にのみ、権利行使が可能となる。		同左		同左	
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。		同左		同左		同左	
権利行使期間	2010年3月10日～ 2024年3月8日		2013年6月28日～ 2019年6月27日		2015年6月28日～ 2019年6月27日		2015年10月1日～ 2019年9月30日	

会社名	㈱ビデオマーケット		㈱ビデオマーケット		㈱ビデオマーケット		㈱ビデオマーケット	
回号	第11回新株予約権		第12回新株予約権		第13回新株予約権		第14回新株予約権	
取締役会決議年月日	2015年11月25日		2017年3月24日		2017年3月24日		2018年5月16日	
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 同社使用人	1名 62名	同社取締役 同社監査役	2名 2名	提出会社		同社使用人	1名
株式の種類及び付与数	普通株式	348株	普通株式	2,227株	普通株式	1,500株	普通株式	10株
付与日	2015年12月14日		2017年4月6日		2017年4月6日		2018年5月20日	
権利確定条件	金融商品取引所へ同社の普通株式が上場または証券市場への株式の公開が行われた日以降に、同社または同社子会社の取締役、監査役、執行役員、		同社または同社子会社の取締役、監査役、執行役員、従業員ならびに顧問、その他名目の如何を問わず同社との間で委任、請負等の継続的な契約関係にある地位にある場合、または退任もしくは退職後の権利行使につき正当な理由があると取締役会が認めた場合にのみ、権利行使が可能となる。		同社指定の書面により新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使できない。		同社または同社子会社の取締役、監査役、執行役員、従業員の地位にある場合にのみ、権利行使が可能となる。	
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。		同左		同左		同左	
権利行使期間	2017年12月15日～ 2021年12月14日		2017年4月6日～ 2027年4月5日		2017年4月6日～ 2027年4月5日		2020年5月21日～ 2024年5月20日	

会社名	クリニカルプラットフォーム(株)		クリニカルプラットフォーム(株)		クリニカルプラットフォーム(株)		クリニカルプラットフォーム(株)	
回号	第1回新株予約権		第2回新株予約権		第3回新株予約権		第4回新株予約権	
取締役会決議年月日	2015年11月27日		2016年11月30日		2017年11月29日		2018年3月20日	
付与対象者の区分及び人数	同社使用人	3名	同社使用人	3名	同社使用人	3名	提出会社 同社取締役 同社取引先	2名 3社
株式の種類及び付与数	普通株式	96株	普通株式	31株	普通株式	26株	普通株式	1,425株
付与日	2015年12月1日		2016年12月1日		2017年12月1日		2018年3月23日	
権利確定条件	同社または同社と一定の資本関係にある子会社等（上場会社を除く）の取締役または従業員、その他これに準ずる地位にある場合にのみ権利行使が可能となる。		同社または同社と一定の資本関係にある子会社等（上場会社を除く）の取締役または従業員、その他これに準ずる地位にある場合にのみ権利行使が可能となる。		同左		割当を受けたものが自然人である場合、権利行使時においても同社取締役または従業員その他これに準ずる地位にあることを条件とする。 割当を受けたものが法人である場合、権利行使時においても同社と資本関係がある場合にのみ権利行使が可能となる。	
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。		対象勤務期間の定めはありません。		対象勤務期間の定めはありません。		対象勤務期間の定めはありません。	
権利行使期間	2017年12月1日～ 2025年11月30日		2018年12月1日～ 2026年11月30日		2019年12月1日～ 2027年11月30日		2018年3月23日～ 2028年3月22日	

会社名	クリニカルプラットフォーム(株)	
回号	第5回新株予約権	
取締役会決議年月日	2018年3月20日	
付与対象者の区分及び人数	同社取締役 同社使用人	1名 1名
株式の種類及び付与数	普通株式	150株
付与日	2018年3月23日	
権利確定条件	権利行使時においても同社取締役または従業員その他これに準ずる地位にあることを条件とする。	
対象勤務期間	対象勤務期間の定めはありません。	
権利行使期間	2020年3月23日～ 2028年3月22日	

(2) ストックオプション等の規模及びその変動状況

a. ストックオプション等の数

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
取締役会 決議年月日	2013年2月6日	2014年2月5日	2015年5月1日	2016年1月29日
回号	第17回新株予約権	第18回新株予約権	第19回新株予約権	第20回新株予約権
権利確定前				
期首	—	—	—	311,700株
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	5,700株
権利確定	—	—	—	306,000株
未確定残	—	—	—	—
権利確定後				
期首	221,200株	272,400株	144,200株	—
権利確定	—	—	—	306,000株
権利行使	124,000株	38,000株	—	—
失効	97,200株	800株	5,200株	9,400株
未行使残	—	233,600株	139,000株	296,600株

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	(株)ビデオマーケット
取締役会 決議年月日	2016年3月8日	2017年4月27日	2018年4月27日	2010年3月9日
回号	第21回新株予約権	第22回新株予約権	第23回新株予約権	第6回新株予約権
権利確定前				
期首	22,300株	390,200株	—	—
付与	—	—	369,000株	—
失効	3,000株	32,800株	3,700株	—
権利確定	19,300株	—	—	—
未確定残	—	357,400株	365,300株	—
権利確定後				
期首	—	—	—	1,000株
権利確定	19,300株	—	—	—
権利行使	—	—	—	—
失効	700株	—	—	—
未行使残	18,600株	—	—	1,000株

会社名	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット
取締役会 決議年月日	2013年5月31日	2013年5月31日	2013年9月25日	2015年11月25日
回号	第7回新株予約権	第8回新株予約権	第10回新株予約権	第11回新株予約権
権利確定前				
期首	—	—	—	307株
付与	—	—	—	—
失効	—	—	—	6株
権利確定	—	—	—	—
未確定残	—	—	—	301株
権利確定後				
期首	1,900株	53株	10株	—
権利確定	—	—	—	—
権利行使	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
未行使残	1,900株	53株	10株	—

会社名	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	クリニカルプラットフォーム(株)
取締役会 決議年月日	2017年3月24日	2017年3月24日	2018年5月16日	2015年11月27日
回号	第12回新株予約権	第13回新株予約権	第14回新株予約権	第1回新株予約権
権利確定前				
期首	—	—	—	96株
付与	—	—	10株	—
失効	—	—	—	16株
権利確定	—	—	—	80株
未確定残	—	—	10株	—
権利確定後				
期首	2,227株	1,500株	—	—
権利確定	—	—	—	80株
権利行使	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
未行使残	2,227株	1,500株	—	80株

会社名	クリニカルプラットフォーム(株)	クリニカルプラットフォーム(株)	クリニカルプラットフォーム(株)	クリニカルプラットフォーム(株)
取締役会 決議年月日	2016年11月30日	2017年11月29日	2018年3月20日	2018年3月20日
回号	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権	第5回新株予約権
権利確定前				
期首	31株	—	—	—
付与	—	26株	1,425株	150株
失効	10株	—	—	—
権利確定	—	—	1,425株	—
未確定残	21株	26株	—	150株
権利確定後				
期首	—	—	—	—
権利確定	—	—	1,425株	—
権利行使	—	—	—	—
失効	—	—	—	—
未行使残	—	—	1,425株	—

- (注) 1 提出会社において、2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っています。これに伴い、ストックオプションの株式の数は調整後の株式の数を記載しています。
- 2 提出会社において、2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。これに伴い、ストックオプションの株式の数は調整後の株式の数を記載しています。
- 3 提出会社において、2015年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。これに伴い、ストックオプションの株式の数は調整後の株式の数を記載しています。

b. 単価情報

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	提出会社
取締役会決議年月日	2013年2月6日	2014年2月5日	2015年5月1日	2016年1月29日
回号	第17回新株予約権	第18回新株予約権	第19回新株予約権	第20回新株予約権
権利行使価額	253円	455円	859円	699円
行使時平均株価	651円	655円	—	—
付与日における公正な評価単価	68円	111円	309円	231円

会社名	提出会社	提出会社	提出会社	(株)ビデオマーケット
取締役会決議年月日	2016年3月8日	2017年4月27日	2017年4月27日	2010年3月9日
回号	第21回新株予約権	第22回新株予約権	第23回新株予約権	第6回新株予約権
権利行使価額	782円	678円	690円	1円
行使時平均株価	—	—	—	—
付与日における公正な評価単価	292円	192円	172円	—

会社名	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット
取締役会決議年月日	2013年5月31日	2013年5月31日	2013年9月25日	2015年11月25日
回号	第7回新株予約権	第8回新株予約権	第10回新株予約権	第11回新株予約権
権利行使価額	50,000円	50,000円	75,000円	75,000円
行使時平均株価	—	—	—	—
付与日における公正な評価単価	—	—	—	—

会社名	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	(株)ビデオマーケット	クリニカルプラットフォーム(株)
取締役会決議年月日	2017年3月24日	2017年3月24日	2018年5月16日	2015年11月27日
回号	第12回新株予約権	第13回新株予約権	第14回新株予約権	第1回新株予約権
権利行使価額	250,000円	250,000円	250,000円	300,000円
行使時平均株価	—	—	—	—
付与日における公正な評価単価	—	—	—	—

会社名	クリニカルプラットフォーム(株)	クリニカルプラットフォーム(株)	クリニカルプラットフォーム(株)	クリニカルプラットフォーム(株)
取締役会決議年月日	2016年11月30日	2017年11月29日	2018年3月20日	2018年3月20日
回号	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権	第5回新株予約権
権利行使価額	770,000円	770,000円	770,000円	770,000円
行使時平均株価	—	—	—	—
付与日における公正な評価単価	—	—	—	—

- (注) 1 提出会社において、2013年4月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っています。これに伴い、権利行使価額および付与日における公正な評価単価は調整後の1株当たりの価格を記載していません。
- 2 提出会社において、2014年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。これに伴い、権利行使価額および付与日における公正な評価単価は調整後の1株当たりの価格を記載していません。
- 3 提出会社において、2015年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っています。これに伴い、権利行使価額および付与日における公正な評価単価は調整後の1株当たりの価格を記載していません。
- 4 提出会社において、権利行使価額および付与日における公正な評価単価は、株式分割に伴う調整により生じた1円未満の端数を切り上げて表示しています。

その他の連結子会社

重要性が乏しいため記載を省略しています。

4 当連結会計年度に付与されたストックオプションの公正な評価単価の見積方法

提出会社

(1) 使用した算定技法

ブラック・ショールズ式

(2) 使用した基礎数値およびその見積方法

		第23回新株予約権
株価変動性	(注) 1	39.956%
予想残存期間	(注) 2	3年8ヶ月
予想配当	(注) 3	16円/株
無リスク利率	(注) 4	△0.107%

(注) 1 第23回新株予約権については2014年9月1日～2018年5月11日の株価実績に基づき算定しました。

2 十分なデータの蓄積が無く、合理的な見積が困難であるため、権利行使期間の中間点において行使されるものと推定して見積もっています。

3 第23回新株予約権については2017年9月期第2四半期末および2017年9月期期末の配当実績により算定しました。

4 予想残存期間に対応する国債の利回りを使用しました。

連結子会社

(株)ビデオマーケット

第14回新株予約権の付与時において未公開企業であるため、ストック・オプションの公正な評価単価に代え、その単位当たりの本源的価値を持って評価単価としています。

また、単位当たりの本源的価値を算定する基礎となる同社株式の評価方法は、DCF法により算定しています。

(クリニカルプラットフォーム(株))

第4回新株予約権および第5回新株予約権の付与時において未公開企業であるため、ストック・オプションの公正な評価単価に代え、その単位当たりの本源的価値を持って評価単価としています。

また、単位当たりの本源的価値を算定する基礎となる同社株式の評価方法は、DCF法により算定しています。

5 スtockオプション等の権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の見積もりは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しています。

6 スtock・オプション等の単位当たりの本源的価値により算定を行う場合の当連結会計年度末における本源的価値の合計額および当連結会計年度において権利行使されたストック・オプション等の権利行使日における本源的価値の合計額

連結子会社

(株)ビデオマーケット

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額 228,272千円

(2) 当連結会計年度において権利行使された本源的価値の合計額 — 千円

(クリニカルプラットフォーム(株))

(1) 当連結会計年度末における本源的価値の合計額 29,540千円

(2) 当連結会計年度において権利行使された本源的価値の合計額 — 千円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生 of 主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	14,892千円	12,092千円
賞与引当金	92,347千円	99,494千円
未払事業税	43,002千円	24,931千円
ポイント引当金	45,838千円	43,412千円
その他	56,653千円	42,482千円
繰延税金資産小計	252,735千円	222,413千円
評価性引当額	△14,932千円	△18,105千円
繰延税金資産(流動)小計	237,802千円	204,307千円
ソフトウェア	667,453千円	743,947千円
投資有価証券	212,989千円	175,746千円
退職給付に係る負債	312,437千円	339,497千円
貸倒引当金	19,453千円	7,907千円
繰越欠損金	1,023,330千円	894,533千円
その他有価証券評価差額金	5,541千円	—千円
その他	62,279千円	63,773千円
繰延税金資産小計	2,303,484千円	2,225,406千円
評価性引当額	△1,285,325千円	△1,130,252千円
繰延税金資産(固定)小計	1,018,159千円	1,095,154千円
繰延税金資産合計	1,255,961千円	1,299,462千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	—千円	△36,992千円
繰延税金負債計	—千円	△36,992千円
繰延税金資産の純額	1,255,961千円	1,262,469千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2017年9月30日)	当連結会計年度 (2018年9月30日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.8%	1.6%
法人住民税均等割	0.7%	1.1%
評価性引当額の増減	10.7%	△9.0%
のれんの償却額	15.6%	12.2%
段階取得に係る差益	△7.8%	△1.4%
持分法による投資損失	1.7%	1.5%
税額控除	△0.7%	△0.2%
その他	△0.3%	△0.8%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	52.6%	35.9%

(企業結合等関係)

(共通支配下の取引等)

当社は、2017年7月28日開催の取締役会決議に基づき、2017年10月1日を効力発生日として、当社の連結子会社であったクライム・ファクトリー株式会社を吸収合併いたしました。

1. 取引の概要

- (1) 結合当事企業の名称およびその事業の内容
企業の名称 クライム・ファクトリー株式会社
事業の内容 スポーツに特化したITソリューション提供
- (2) 企業結合日
2017年10月1日
- (3) 企業結合の法的形式
当社を存続会社とする吸収合併方式で、クライム・ファクトリー株式会社は解散いたしました。
- (4) 結合後企業の名称
変更ありません。
- (5) その他取引の概要に関する事項
同社はスポーツ現場をはじめとしたシステム開発、情報分析、ソリューション提案等を行っていましたが、同社を吸収合併し一体運営の方がより効率的と判断したためです。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2013年9月13日)および「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2013年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理しています。

(取得による企業結合)

1. 企業結合の概要

- (1) 被取得企業の名称及び事業の内容
被取得企業の名称 クリニカル・プラットフォーム株式会社
事業の内容 クラウド電子カルテ等の開発
- (2) 企業結合を行った主な理由
クラウド電子カルテの普及促進に向けた協業を推進していくためです。
- (3) 企業結合日
2018年3月23日
- (4) 企業結合の法的形式
株式譲受および第三者割当増資の引受けによる株式取得
- (5) 結合後企業の名称
変更ありません。
- (6) 取得した議決権比率
企業結合直前に所有していた議決権比率 6.55%
企業結合日に追加取得した議決権比率 44.31%
取得後の議決権比率 50.86%
- (7) 取得企業を決定するに至った主な根拠
当社による、現金を対価とする株式取得により議決権の過半数を保有することになったためです。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2018年4月1日から2018年9月30日まで

3. 被取得企業の取得原価および対価の種類ごとの内訳

取得の対価

企業結合直前に保有していたクリニカル・プラットフォーム株式会社の株式の企業結合日 98,560千円
における時価

追加取得に伴い支出した現金 905,520千円

取得原価 1,004,080千円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等 10,800千円

5. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

段階取得に係る差益 96,636千円

6. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれん

811,681千円

(2) 発生原因

取得原価が取得時の時価純資産額を上回ったため、その超過額をのれんとして計上しています。

(3) 償却方法及び償却期間

5年間の均等償却

なお、当該のれんについては、当連結会計年度末において、関係会社株式の実質価額が低下したことから、未償却残高730,513千円を全額償却しています。

7. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額ならびにその主な内訳

流動資産	409,995千円
固定資産	26,798千円
資産合計	436,793千円
流動負債	48,607千円
固定負債	9,880千円
負債合計	58,487千円

8. 企業結合が連結会計年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額およびその算定方法

売上高	17,605千円
営業利益	△177,821千円
経常利益	△174,244千円
親会社株主に帰属する当期純利益	△88,617千円
1株当たり当期純利益	△1.62円

(概算額の算定方法)

企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定して算定された売上高および損益情報と当社連結損益計算書における売上高および損益状況との差額に、当該期間に係る非支配株主に帰属する当期純損益の調整を行い算出しています。なお、当該注記は監査証明を受けていません。

なお、(株)PV、(株)i-seeおよび(株)ココマミーは連結財務諸表に与える金額の重要性が乏しいため注記の記載を省略しています。

(資産除去債務関係)

当社グループは、事務所の不動産賃貸借契約に基づく退去時における原状回復義務を資産除去債務として認識しています。

なお、当連結会計年度末における資産除去債務は、負債計上に代えて、不動産賃貸借契約に関連する敷金の回収が最終的に見込めないと認められる金額を合理的に見積もり、当連結会計年度の負担に属する金額を費用に計上する方法によっています。

(賃貸等不動産関係)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社は、携帯電話向けのコンテンツ配信（サイト運営）およびそれに関連したサービスを提供しています。従来、事業セグメントとしてコンテンツ配信事業と自社メディア型広告事業に分けて開示していましたが、自社メディア型広告事業は広告収入型の事業として単独で運営することを目的としているのではなく、コンテンツ配信事業（有料課金サイト）への送客機能などを担うことを大きな目的とし両者は相互補完的な関係となっていることから、経営資源の配分や業績評価は当社全体で行っています。したがって、事業セグメントは単一であり、記載を省略しています。

【関連情報】

前連結会計年度（自 2016年10月1日 至 2017年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称または氏名	売上高
株式会社NTTドコモ	17,939,701
KDDI株式会社	7,074,233
ソフトバンク株式会社	1,418,821

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、セグメントごとに記載していません。

当連結会計年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しています。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しています。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しています。

3. 主要な顧客ごとの情報

(単位：千円)

顧客の名称または氏名	売上高
株式会社NTTドコモ	16,387,242
KDDI株式会社	6,687,231
ソフトバンク株式会社	1,112,930

(注) 当社グループは、単一セグメントであるため、セグメントごとに記載していません。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2016年10月1日 至 2017年9月30日）

事業セグメントが単一のため、記載を省略しています。

当連結会計年度（自 2017年10月1日 至 2018年9月30日）

事業セグメントが単一のため、記載を省略しています。

【報告セグメントごとののれんの償却額および未償却残高に関する情報】

事業セグメントが単一のため、記載を省略しています。

【報告セグメントごとの負ののれんの発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社 役員	高橋 利樹	—	—	㈱ビデオマ ーケット代 表取締役	なし	株式の買取	関係会社株 式の買取	250,000	—	—

(注) 1 記載金額のうち、取引金額には消費税等が含まれていません。

2 関係会社株式の買取については、取得価額の公正性を担保する観点から、独立した第三者機関に取得価額の算定を依頼し、その算定結果を対価の基礎として、取得価額を決定しています。

当連結会計年度(自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
1株当たり純資産額	312円28銭	328円78銭
1株当たり当期純利益金額	26円27銭	29円85銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額	26円12銭	29円75銭

(注) 1株当たり当期純利益金額および潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりです。

項目	前連結会計年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当連結会計年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益金額	1,434,207千円	1,629,077千円
普通株主に帰属しない金額	一千円	一千円
普通株式に係る親会社株主に帰属する 当期純利益金額	1,434,207千円	1,629,077千円
普通株式の期中平均株式数	54,595,270株	54,567,909株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額		
親会社株主に帰属する当期純利益調整額	一千円	一千円
普通株式増加数	310,796株	192,257株
(うち新株予約権)	310,796株	192,257株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 当期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式の概要	新株予約権 取締役会の決議日 2015年5月1日 (新株予約権 1,442個) 2016年1月29日 (新株予約権 3,117個) 2016年3月8日 (新株予約権 223個) 2017年4月27日 (新株予約権 3,902個)	新株予約権 取締役会の決議日 2015年5月1日 (新株予約権 1,390個) 2016年1月29日 (新株予約権 2,966個) 2016年3月8日 (新株予約権 186個) 2017年4月27日 (新株予約権 3,574個) 2018年4月27日 (新株予約権 3,653個)

(重要な後発事象)

(連結子会社の第三者割当増資)

当社は、2018年10月31日開催の取締役会において、連結子会社である株式会社カラダメディカ(以下、「カラダメディカ」という)が株式会社メディopalホールディングス(以下、「メディopal」という)を割当先とする第三者割当増資を実施することについて決議し、2018年11月9日に実行しました。

1. 資本提携の背景と目的

当社およびメディopalは、医療・ヘルスケア領域のICT化を普及・促進し、医療・ヘルスケアプラットフォームの構築を実現することを目的に、2016年6月に資本業務提携を行っております。この提携を推進する一環として、オンライン診療サービス事業に関わる協業を両社で合意するとともに、また両社の協業関係をより深化させる観点から、この度100%子会社であるカラダメディカがメディopalに対して第三者割当増資を実施(メディopalの出資比率は34.4%)することになりました。

2. 第三者割当増資の概要

(1) 発行する株式の種類および数

普通株式 9,000株

(2) 調達資金の額

2,115,000千円

(3) 増資後出資比率

当社 65.6%

株式会社メディopalホールディングス 34.4%

(4) 払込期日

2018年11月9日

⑤ 【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

該当事項はありません。

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	7,517,108	15,162,759	22,199,332	29,075,702
税金等調整前 四半期(当期)純利益金額 (千円)	587,862	1,113,161	2,135,927	2,096,055
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益金額 (千円)	801,513	1,154,251	1,895,132	1,629,077
1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	14.70	21.17	34.74	29.85

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり 四半期純利益金額又は 1株当たり 四半期純損失金額(△) (円)	14.70	6.47	13.57	△4.87

2 【財務諸表等】
 (1) 【財務諸表】
 ① 【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年9月30日)	当事業年度 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,660,853	7,761,531
売掛金	※1 5,479,479	※1 4,606,082
商品	9,678	17,177
貯蔵品	9,787	2,597
前渡金	※1 70,253	※1 68,397
前払費用	341,184	309,300
未収入金	※1 98,581	※1 115,932
繰延税金資産	215,820	197,630
その他	※1 137,766	※1 68,353
貸倒引当金	△48,394	△34,362
流動資産合計	13,975,011	13,112,640
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備	321,403	339,981
減価償却累計額	△256,074	△268,077
建物附属設備 (純額)	65,329	71,904
工具、器具及び備品	366,935	401,016
減価償却累計額	△213,468	△264,132
工具、器具及び備品 (純額)	153,467	136,883
有形固定資産合計	218,796	208,788
無形固定資産		
特許権	50,083	18,060
商標権	15,683	14,006
ソフトウェア	1,861,153	1,559,853
のれん	—	7,777
その他	1,849	2,173
無形固定資産合計	1,928,769	1,601,870
投資その他の資産		
投資有価証券	1,864,513	2,419,017
関係会社株式	1,915,592	2,104,818
長期貸付金	※1 475,000	※1 755,000
従業員に対する長期貸付金	85	1,728
長期前払費用	7,991	21,385
敷金及び保証金	461,647	453,440
繰延税金資産	1,046,538	1,075,864
その他	※1 116,879	※1 26,128
貸倒引当金	△63,532	△25,829
投資その他の資産合計	5,824,714	6,831,553
固定資産合計	7,972,280	8,642,213
資産合計	21,947,292	21,754,853

(単位：千円)

	前事業年度 (2017年9月30日)	当事業年度 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	※1 878,759	※1 838,561
未払金	※1 1,944,565	※1 1,468,754
未払費用	320,617	320,388
未払法人税等	556,469	66,066
未払消費税等	54,729	124,130
前受金	108,289	86,110
預り金	※1 68,813	※1 73,728
ポイント引当金	148,536	141,777
役員賞与引当金	20,025	19,939
その他	74,265	83,081
流動負債合計	4,175,072	3,222,537
固定負債		
退職給付引当金	1,076,918	1,198,558
その他	34,111	12,141
固定負債合計	1,111,030	1,210,699
負債合計	5,286,102	4,433,237
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,069,848	5,100,464
資本剰余金		
資本準備金	4,874,918	4,905,533
その他資本剰余金	379,794	379,794
資本剰余金合計	5,254,712	5,285,328
利益剰余金		
利益準備金	7,462	7,462
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	9,367,917	9,804,138
利益剰余金合計	9,375,379	9,811,601
自己株式	△3,148,848	△3,148,848
株主資本合計	16,551,093	17,048,545
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△55,551	72,584
評価・換算差額等合計	△55,551	72,584
新株予約権	165,648	200,486
純資産合計	16,661,189	17,321,616
負債純資産合計	21,947,292	21,754,853

②【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
売上高	※1 27,698,451	※1 24,859,379
売上原価	※1 4,125,628	※1 3,824,086
売上総利益	23,572,823	21,035,293
販売費及び一般管理費	※1,※2 19,109,522	※1,※2 17,593,224
営業利益	4,463,300	3,442,069
営業外収益		
受取利息及び配当金	※1 44,123	※1 92,653
その他	17,264	※1 16,361
営業外収益合計	61,387	109,014
営業外費用		
その他	12,626	45,851
営業外費用合計	12,626	45,851
経常利益	4,512,061	3,505,232
特別利益		
抱合せ株式消滅差益	10,936	—
投資有価証券売却益	154,911	60,002
新株予約権戻入益	4,315	10,632
特別利益合計	170,163	70,634
特別損失		
減損損失	193,500	52,607
固定資産除却損	90,194	124,402
投資有価証券評価損	200,000	185,008
関係会社株式評価損	1,806,923	1,223,620
和解金	108,817	55,827
特別損失合計	2,399,436	1,641,466
税引前当期純利益	2,282,788	1,934,400
法人税、住民税及び事業税	1,449,998	693,175
法人税等調整額	△111,236	△67,646
法人税等合計	1,338,761	625,528
当期純利益	944,026	1,308,871

【売上原価明細書】

区分	注記 番号	前事業年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)		当事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)	
		金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
I データ仕入高		3,592,251	87.1	3,306,251	86.5
II 経費	※1	533,377	12.9	517,834	13.5
計		4,125,628	100.0	3,824,086	100.0

(注) ※1 主な内訳は、次のとおりです。

項目	前事業年度(千円)	当事業年度(千円)
外注費	463,971	440,071
通信費	37,242	45,972
減価償却費	32,162	31,790

③【株主資本等変動計算書】

前事業年度(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	5,012,181	4,817,250	379,794	5,197,045	7,462	9,304,451	9,311,913	△2,148,888	17,372,252
当期変動額									
新株の発行(新株予約権の行使)	57,667	57,667		57,667					115,334
剰余金の配当						△880,560	△880,560		△880,560
当期純利益						944,026	944,026		944,026
自己株式の取得								△999,959	△999,959
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)									
当期変動額合計	57,667	57,667	—	57,667	—	63,466	63,466	△999,959	△821,158
当期末残高	5,069,848	4,874,918	379,794	5,254,712	7,462	9,367,917	9,375,379	△3,148,848	16,551,093

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	68,682	68,682	132,103	17,573,037
当期変動額				
新株の発行(新株予約権の行使)				115,334
剰余金の配当				△880,560
当期純利益				944,026
自己株式の取得				△999,959
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△124,233	△124,233	33,544	△90,688
当期変動額合計	△124,233	△124,233	33,544	△911,847
当期末残高	△55,551	△55,551	165,648	16,661,189

当事業年度(自 2017年10月 1 日 至 2018年 9 月30日)

(単位：千円)

	株主資本								
	資本金	資本剰余金			利益剰余金			自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金	利益剰余金合計		
当期首残高	5,069,848	4,874,918	379,794	5,254,712	7,462	9,367,917	9,375,379	△3,148,848	16,551,093
当期変動額									
新株の発行（新株予約権の行使）	30,615	30,615		30,615					61,231
剰余金の配当						△872,650	△872,650		△872,650
当期純利益						1,308,871	1,308,871		1,308,871
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）									
当期変動額合計	30,615	30,615	—	30,615	—	436,221	436,221	—	497,452
当期末残高	5,100,464	4,905,533	379,794	5,285,328	7,462	9,804,138	9,811,601	△3,148,848	17,048,545

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
当期首残高	△55,551	△55,551	165,648	16,661,189
当期変動額				
新株の発行（新株予約権の行使）				61,231
剰余金の配当				△872,650
当期純利益				1,308,871
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	128,135	128,135	34,838	162,974
当期変動額合計	128,135	128,135	34,838	660,426
当期末残高	72,584	72,584	200,486	17,321,616

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準および評価方法

① 子会社株式および関連会社株式

移動平均法による原価法を採用しています。

② その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法を採用しています。(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定しています。)

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しています。

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

① 商品

移動平均法による原価法を採用しています。(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しています。)

② 貯蔵品

最終仕入原価法を採用しています。(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定しています。)

2 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産

定率法を採用しています。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については定額法を採用しています。なお、主な耐用年数は次のとおりです。

建物附属設備 3～18年

工具、器具及び備品 3～20年

(2) 無形固定資産

定額法を採用しています。なお、自社利用のソフトウェアについては、自社における利用可能期間(2～5年)に基づく定額法を採用しています。

(3) 長期前払費用

定額法を採用しています。

3 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しています。

(2) ポイント引当金

当社が提供するコンテンツ配信サービスの会員に付与したポイント等の使用により今後発生する売上原価について、当事業年度末において将来発生すると見込まれる額を計上しています。

(3) 役員賞与引当金

役員に対して支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき当事業年度に見合う分を計上しています。

(4) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しています。退職給付引当金および退職給付費用の処理方法は以下のとおりです。

①退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定に当たり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、期間定額基準によっています。

②数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間による定額法により、翌事業年度から費用処理しています。

未認識数理計算上の差異の貸借対照表における取扱いが連結貸借対照表と異なります。

4 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

消費税等の会計処理は、税抜方式によっています。

5 のれんの償却方法および償却期間

のれんの償却については、その効果の発現する期間を個別に見積もり、償却期間を決定した上で均等償却することになっています。

(表示方法の変更)

前事業年度において、貸借対照表に掲記しておりました「コイン等引当金」は、その実態をより適切に表示するため当事業年度より「ポイント引当金」に名称を変更して表示しています。

(貸借対照表関係)

※1 関係会社に対する金銭債権および金銭債務

	前事業年度 (2017年9月30日)	当事業年度 (2018年9月30日)
短期金銭債権	402,768千円	217,187千円
長期金銭債権	486,315千円	762,697千円
短期金銭債務	238,728千円	225,895千円

2 当社においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行6行と当座貸越契約を締結しています。これら契約に基づく当事業年度末の借入未実行残高は次のとおりです。

	前事業年度 (2017年9月30日)	当事業年度 (2018年9月30日)
当座貸越極度額	3,300,000千円	3,300,000千円
借入実行残高	—千円	—千円
差引額	3,300,000千円	3,300,000千円

(損益計算書関係)

※1 関係会社との取引高は次のとおりです。

	前事業年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
営業取引(収入分)	1,111,886千円	827,674千円
営業取引(支出分)	888,434千円	1,188,506千円
営業取引以外の取引(収入分)	8,608千円	10,722千円

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2016年10月1日 至 2017年9月30日)	当事業年度 (自 2017年10月1日 至 2018年9月30日)
販売促進費	107,650千円	127,713千円
広告宣伝費	5,514,386千円	4,347,760千円
役員報酬	159,642千円	156,586千円
給料及び手当	2,927,871千円	2,935,749千円
雑給派遣費	223,729千円	272,239千円
役員賞与引当金繰入額	20,025千円	19,939千円
福利厚生費	601,189千円	595,113千円
外注費	1,560,336千円	1,391,004千円
支払手数料	3,435,595千円	3,311,151千円
地代家賃	694,551千円	725,407千円
賃借料	34,894千円	17,667千円
減価償却費	1,631,841千円	1,520,118千円
貸倒引当金繰入額	71,524千円	60,051千円
おおよその割合		
販売費	29.44%	25.49%
一般管理費	70.56%	74.51%

(有価証券関係)

子会社株式及び関連会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式及び関連会社株式の貸借対照表計上額

(単位：千円)

区分	前事業年度 (2017年9月30日)	当事業年度 (2018年9月30日)
子会社株式	1,735,946	1,822,470
関連会社株式	179,645	282,348
計	1,915,592	2,104,818

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2017年9月30日)	当事業年度 (2018年9月30日)
(繰延税金資産)		
貸倒引当金	34,346千円	18,430千円
賞与引当金	90,250千円	89,699千円
ポイント引当金	45,838千円	43,412千円
ソフトウェア	652,531千円	705,467千円
投資有価証券	198,328千円	161,086千円
関係会社株式	984,291千円	1,323,450千円
退職給付引当金	329,752千円	366,998千円
未払事業税	36,484千円	20,583千円
その他有価証券評価差額金	24,476千円	－千円
その他	94,665千円	82,436千円
評価性引当額	△1,228,606千円	△1,506,036千円
繰延税金資産計	1,262,359千円	1,305,529千円
(繰延税金負債)		
その他有価証券評価差額金	－千円	△32,034千円
繰延税金負債計	－千円	△32,034千円
(繰延税金資産純額)	1,262,359千円	1,273,494千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2017年9月30日)	当事業年度 (2018年9月30日)
法定実効税率	30.9%	30.9%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.9%	0.3%
住民税均等割等	0.7%	0.8%
評価性引当額の増減	26.7%	19.1%
合併による繰越欠損金の引継	－	△17.6%
税額控除	△0.8%	△0.2%
その他	△0.7%	△1.0%
税効果会計適用後の法人税等の負担率	58.6%	32.3%

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

連結財務諸表の「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しています。

取得による企業結合

連結財務諸表の「注記事項(企業結合等関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しています。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

④ 【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額 (千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高 (千円)
有形固定資産							
建物附属設備	321,403	18,577	—	339,981	268,077	11,189	71,904
工具、器具及び備品	366,935	69,218	35,136 (170)	401,016	264,132	57,960	136,883
有形固定資産計	688,339	87,796	35,136 (170)	740,998	532,210	69,150	208,788
無形固定資産							
特許権	59,346	4,573	36,575	27,345	9,284	3,361	18,060
商標権	41,977	2,066	84	43,959	29,953	3,659	14,006
ソフトウェア	10,988,384	1,253,731	2,213,064 (52,435)	10,029,051	8,469,198	1,469,973	1,559,853
のれん	—	9,333	—	9,333	1,555	1,555	7,777
その他	1,849	324	—	2,173	—	—	2,173
無形固定資産計	11,091,557	1,270,029	2,249,723 (52,435)	10,111,862	8,509,992	1,478,549	1,601,870

(注) 1 当期首残高および当期末残高は、取得原価により記載しています。

2 当期の増加の主な内容は次のとおりです。

ソフトウェア サイト開発、社内システム開発費用 1,240,314千円

3 当期の減少の主な内容は次のとおりです。

ソフトウェア ルナルナ、生活情報関連サイト等のクローズ 2,149,637千円

4 当期減少額の欄の()内は内書きで、減損損失の計上額です。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	111,926	76,381	128,115	60,192
ポイント引当金	148,536	141,777	148,536	141,777
役員賞与引当金	20,025	19,939	20,025	19,939

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しています。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6 【提出会社の株式事務の概要】

決算期	9月30日
定時株主総会	12月23日
基準日	9月30日
剰余金の配当の基準日	3月31日 9月30日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告方法は電子公告とする。ただし、電子公告によることができない事故その他やむをえない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 なお、電子公告は当会社のホームページに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.mti.co.jp/koukoku/
株主に対する特典	なし

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当ておよび募集新株予約権の割当てを受ける権利以外の権利を有しておりません。

第7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に次の書類を提出しています。

- | | |
|--|-----------------------|
| (1) 有価証券報告書およびその添付書類、有価証券報告書の確認書
事業年度 第22期
(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日) | 2017年12月25日に関東財務局長に提出 |
| (2) 内部統制報告書およびその添付書
事業年度 第22期
(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日) | 2017年12月25日に関東財務局長に提出 |
| (3) 四半期報告書及び確認書
第23期第1 四半期
(自 2017年10月1日 至 2017年12月31日) | 2018年2月9日に関東財務局長に提出 |
| 第23期第2 四半期
(自 2018年1月1日 至 2018年3月31日) | 2018年5月10日に関東財務局長に提出 |
| 第23期第3 四半期
(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日) | 2018年8月10日に関東財務局長に提出 |
| (4) 臨時報告書
金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書 | 2017年12月25日に関東財務局長に提出 |
| 金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）の規定に基づく臨時報告書 | 2018年4月18日に関東財務局長に提出 |
| 金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（新株予約権の発行）の規定に基づく臨時報告書 | 2018年4月27日に関東財務局長に提出 |
| 金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第4号（主要株主の異動）の規定に基づく臨時報告書 | 2018年9月6日に関東財務局長に提出 |
| 金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第12号および第19号の規定に基づく臨時報告書 | 2018年10月30日に関東財務局長に提出 |
| (5) 臨時報告書の訂正報告書
金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第2号の2（新株予約権の発行）の規定に基づく臨時報告書の訂正報告書 | 2018年5月17日に関東財務局長に提出 |
| (6) 有価証券報告書の訂正報告書および確認書
事業年度 第22期
(自 2016年10月1日 至 2017年9月30日) | 2018年8月10日に関東財務局長に提出 |

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2018年12月25日

株式会社エムティーアイ
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	會	田	将	之	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石	井	広	幸	Ⓜ

<財務諸表監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エムティーアイの2017年10月1日から2018年9月30日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エムティーアイ及び連結子会社の2018年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

<内部統制監査>

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社エムティーアイの2018年9月30日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、株式会社エムティーアイが2018年9月30日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2018年12月25日

株式会社エムティーアイ
取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	會	田	将	之	Ⓜ
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	石	井	広	幸	Ⓜ

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社エムティーアイの2017年10月1日から2018年9月30日までの第23期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社エムティーアイの2018年9月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

※1. 上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは監査の対象には含まれていません。